

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
 -小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
1. SIDS家族の会	26.乳児のSIDS死亡の防止 36.	26.乳児のSIDS死亡の防止 講演会実施(大阪府、9月23日、約50名参加) 講師:グリーンカウンセラー 米虫圭子 目的:(テーマ)「幼い命を亡くした家族へのケア」 講演会実施(熊本市、11月19日、21名参加) 講師:熊本地域医療センター小児科部長 後藤善隆 目的:(テーマ)「小児救急医療における突然死」 遺族のためのミーティング開催 目的:SIDSなどで赤ちゃんを亡くした家族の精神的サポートを行う 参加人数:約500名 開催数、方法:45回、各支部にて企画、開催 北海道、宮城県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、富山県、愛知県、大阪府、京都府、和歌山県、福岡県、熊本県で開催 効果、その他:近年、SIDS以外の死産、流産、周産期死亡の遺族の参加が増え、次の妊娠のためにも、赤ちゃんを亡くした悲しみを癒すケア活動の必要性を痛感する 医療機関に対するアンケート実施 SIDS発生後の対応に関するアンケートを医療機関等を実施、 産婦人科160、小児科120、保育園300施設から回答を得る 36.乳幼児期のうつぶせ寝の防止 危険因子パンフレットの販売 約20000部を販売	26.乳児のSIDS死亡の防止 遺族のためのミーティングを継続開催 7月にカナダで開催される国際会議に参加し、最新のSIDS研究の成果を入手すると共に、平成18年に日本で開催する国際会議の案内を行う。 36.乳幼児期のうつぶせ寝の防止 危険因子パンフレットの継続販売

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
-小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
2.(社福)恩賜財団 母子愛育会	1.2.3.4.5.	<p>1.母子保健関係者に対する研修会・講習会の実施 目的・対象者及び参加人員 保健師に対し、母子保健に関する最新知識と今日的課題への対応及び保健指導技術を修得させた。自治体の保健師 100名 栄養士に対し、乳幼児期の食生活・栄養に関わる知識・情報を提供し、栄養相談を展開するための技術を学ばせた。自治体勤務の栄養士 30名 母子保健の課題と最新情報に関する講義、事例研究等により、専門指導員を育成した。自治体勤務の保健師・助産師・看護師等 30名 医師、助産師及び看護師に対し、新生児・未熟児の診断・治療・看護等に関する最新の理論と技術を提供した。医師・助産師・看護師 290名 臨床検査技師に対し、最新の技術と情報を提供し、技術者の資質を高めた。先天性代謝異常症等検査技術者 50名</p> <p>2.子ども家庭福祉情報等の提供事業 目的～子ども家庭福祉に関する各種情報を幅広く関連機関職員や研究者等に提供した。 情報収集リスト～ 国の施策、審議会、懇談会等 虐待問題、里親問題等 病気・医療 健やか親子21関連 子育て支援 児童福祉施設・養護施設 障害児に関すること等 Web版「愛育ネット」による情報提供～解説論文・行政情報及び統計情報 専門図書資料の収集及び閲覧～蔵書数 約5千冊、文献資料 約1,500件</p>	<p>平成15年度の取組実績に準じ、下記のとおり実施する計画である。</p> <p>1.母子保健関係者に対する研修会・講習会の実施 実施内容及び対象範囲を再検討して実施する。</p> <p>2.子ども家庭福祉情報等の提供事業 内容の充実を図り、実施する。</p> <p>3.愛育班員等研修会 愛育班員の拡充と指導員の増員を図る。</p> <p>4.子ども総研式・子育て支援質問紙の作成・頒布 設問内容を要望に添ったものに再検討し、作成する。</p> <p>5.専門里親養成教育の開催 地方自治体からの要望に応じられるよう、関係方面と協議して実施する。</p>
2.(社福)恩賜財団 母子愛育会		<p>3.愛育班員等研修会～市町村の愛育班員及び各保健所の保健師を対象に、中央及び地方における指導者・講師の派遣及び研修会等の開催 10回</p> <p>4.子ども総研式・子育て支援質問紙の作成・頒布～育児不安の軽減を図るために、育児不安の関連要因を評定できるような質問紙を作成し、頒布した。</p> <p>5.専門里親養成教育の開催～厚生労働省が平成14年度から導入した「専門里親」を養成するための理論と実践について教育した。 100名</p>	

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
 -小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
5. 子どもの心・体と環境を考える会	小児保健医療水準の維持・向上に関する学際的なエビデンスの集積	<p>研究会誌「子どもの健康科学」第4巻1号発行</p> <p>第4回学術大会の講演およびシンポジウム（「現代の子育てに対する地域支援の在り方」「わが国の将来を担う子どもの健全な育成のために」）について、演者が論文化した研究会誌200部を発行、配布した。</p> <p>第5回学術大会開催</p> <p>平成15年12月12日（金）13日（土）の両日、千葉大学けやき会館にて開催。参加人数約150名。「今考えよう！子ども達の環境と未来を」をメインテーマとし、2つのシンポジウム、2題の講演、3セッション11題の一般演題発表が行われた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シンポジウム：「飯倉教授追悼シンポジウム」 ・シンポジウム：「生き生きとした子どもを育む環境作り」 ・特別講演：「小児と環境ホルモン」 ・教育講演：「こどもの心身症」 <p>・その他一般演題では、「当院小児病棟の音環境の問題点とその改善方法 - より良い音環境に配慮した病室作りを目指して -」、「多職種スタッフによる心療科病棟入院児生活プログラム（レインボースクール）の試み」「子どもの養育環境整備に関する実践的研究 - こども会議の果たした役割 -」等、（課題3）に関連した研究報告がなされた。</p> <p>第2回テーマ別研究会開催</p> <p>平成16年3月13日（土）、東京医科歯科大学臨床第二講堂にて開催。参加人数50名。「第1部：研究方法立案ベーシック - 疫学を中心とする研究のデザインと倫理 -（京都大学大学院医学研究科助教授：中山健夫先生）」「第2部：質的研究パート2 - テキスト型データ解析の進め方：量的研究と質的研究のインターフェイス -（久留米大学大学院心理学研究科教授：津田 彰先生）」。</p>	<p>第6回学術大会開催</p> <p>長嶋正實大会長（あいち小児保健医療総合センター：センター長）の下、平成16年12月4日（土）5日（日）に第6回学術大会を開催予定。場所はあいち小児保健医療総合センター大会議室、参加人数は200名程度を予定。メインテーマは「こどものこころ・体と環境をもっと健康に」とし、セミナー、教育講演、特別講演、2つのシンポジウム（「子どもの療養環境を考えよう」「軽度発達障害」）、一般演題発表、等のプログラムを現在準備中。</p> <p>会員の質的向上を目指した研究会「テーマ別研究会」において、子どもに関する、研究や実践に役立つ課題を取り上げる。</p> <p>研究会誌「子どもの健康科学」第4巻第2号、第5巻第1号を発行する。</p> <p>会員相互の情報交換・意見交流を目的としたメーリングリストの活用。</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
-小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
15. 全国保健 所長会	33.家庭での事故防止対策の推進	<p>33.家庭での事故防止対策の推進 1「子ども健やかセーフティ事業」 目的：不慮の事故、乳幼児突然死症候群（SIDS）等による乳幼児死亡率を減らし、安心して子どもを育てることができる環境づくりの推進を図る。 (1)事故情報の収集・分析・発信 県内5ヶ所の定点医療機関からの事故情報を収集 月1回、医療機関より事故情報の報告 当所にて情報入力 収集した事故情報を分析 分析結果を基に、子どもセーフティ通信を作成し、県内の医療機関・保育所・市町村・保健所等に発信（約1,000ヶ所） (2)事故予防啓発活動の実施 事故予防に関する展示（子どもセーフティセンター） 子どもセーフティライブラリーの設置 事故予防教室の実施 実施回数：8回 参加人数：146名（保育園児の保護者等） 関係職員に対する研修会の開催 実施回数：1回 参加人数：38名（保育関係者） 事故予防に関する相談窓口の開設 相談件数：1件</p>	<p>33家庭での事故防止対策の推進 1「子ども健やかセーフティ事業」 目的：不慮の事故、乳幼児突然死症候群（SIDS）等による乳幼児死亡率を減らし、安心して子どもを育てることができる環境づくりの推進を図る。 (1)事故情報の収集・分析・発信 県内5ヶ所の定点医療機関からの事故情報を収集 月1回、医療機関より事故情報の報告 当所にて情報入力 収集した事故情報を分析 分析結果を基に、子どもセーフティ通信を作成し、県内の医療機関・保育所・市町村・保健所等（約1,000ヶ所）に発信予定 (2)事故予防啓発活動の実施 事故予防に関する展示（子どもセーフティセンター） 子どもセーフティライブラリーの設置 事故予防教室の実施 関係職員に対する研修会の開催 事故予防に関する相談窓口の開設</p>
17. 全国保健 師長会	37.38.	<p>37 予防接種（BCG）の必要性の周知と接種の勧奨の強化 38 予防接種（三種混合・麻疹）の必要性の周知と接種の勧奨の強化 ＊予防接種の確認及び勧奨強化 目的：予防接種の完全実施により、疾病の発症や死亡を予防する。 参加人数（対象者）： 開催数、方法等：転入時相談、母子手帳交付時、乳幼児健診時、就学前健診時を通じ、接種の確認や勧奨を実施した。 効果、その他：課題として接種率に差があり、日本脳炎や麻疹の接種率を高める必要がある。</p>	

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
 -小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
19.NPO難病の こども支援全国 ネットワーク	病気や障害のある子どもと家族のQOL維持・向上のために、情報提供と交流活動を進める。	1.相談事業 ネットワーク電話相談室/月～金曜日11時～15時 医療や教育福祉に関する相談を受け付けている。 遺伝(先天異常)特別相談/毎月第4金曜日14時～17時 黒木良和前神奈川県立こども医療センター所長が相談を受けている。 2.サマーキャンプ“がんばれ共和国” あしがらキャンプ/8月1日～3日 神奈川県大井町。 七夕キャンプ/8月8日～10日 宮城県蔵王町 おいでんほうらい/8月22日～24日 愛知県鳳来町。 がんばれ共和国in九州/8月22日～24日 大分県湯布院町 3.親の会活動支援 現在42団体が参加して研究・研修活動を進めている。今年度は小児慢性特定疾患治療研究事業の法制化に取り組んだ。 定例会は4月、7月、10月、1月に開催。臨時会議は12月にもった他、1月に研修旅行を実施した。また、5月3日は「小児慢性疾患フォーラム」を開いた。	1.病気や障害のある子の家族を対象とした相談事業 相談実業/TEL03-5840-5973 ネットワーク電話相談室 月～金 11:00～15:00 遺伝(先天異常)特別相談 毎月第4金曜日 14:00～17:00 ピア・サポート事業 病気や障害のある子どもを育てた経験のある方を対象にトレーニングし家族からの相談を受ける。 2.サマーキャンプ“がんばれ共和国” おーきな輪キャンプ/沖縄県名護市 7月30日～8月1日 七夕キャンプ/ 宮城県蔵王町 7月31日～8月2日 あしがらキャンプ/ 神奈川県大井町 8月6日～8日 がんばれ共和国in九州/大分県湯布院町 8月20日～22日 おいでんほうらい/ 愛知県鳳来町 8月27日～29日
19.NPO難病の こども支援全国 ネットワーク		4.プレイリーダー養成講座の開設と活動支援 養成講座は5月、10月、2月に開講し43名が受講した。修了者は入院している子ども達に遊びを提供するボランティアとして活躍している。研修会は5月と11月に実施した。 5.病弱教育セミナー2004の開催 病弱教育担当教諭を対象に1月9日から11日まで開催し48名が受講した。 6.養護教諭セミナー2003の開催 養護教諭を対象に、病気や障害のある子ども達の理解を求めて、10月25日、11月1日、8日に開催し80名が受講した。 7.こどもの難病シンポジウム PHPから学ぶ 12月6日米国PHPから代表者を招き国際シンポジウムを開催した。	3.親の会活動支援 親の会連絡会の開催。研修会の実施、PR活動他。 小児難病親の会ハンドブック2004の発行。 4.プレイリーダー養成講座の開講と活動支援 プレイリーダーは入院している子どもに遊びを提供するボランティア。これまでに100近くが修了している。講座は今期は3回開催し研修会は2回開催する。 5.こどもの難病シンポジウム 死の受容と生き方への支援 平成16年5月22日(土)国立オリンピック記念青少年総合センターで開催。 6.病弱教育セミナー2005の開催 病弱教育担当教諭を対象に1月14日から16日まで開催する。 7.養護教諭セミナー2004の開催 養護教諭を対象に、病気や障害のある子ども達の理解を求めて、11月13日～14日まで開催する。

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
-小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
20.(社)日本 医師会	35.38. 乳幼児保健検討委員会開催 乳幼児保健講習会開催	35.保護者への心肺蘇生法の周知 「あなたにもできる心肺蘇生法」カードの作成・配布 作成部数:約200万部 配布先:都道府県・郡市区医師会 官公庁他 38.予防接種(三種混合・麻しん)の必要性の周知と接種の 勧奨の強化 予防接種週間の実施(特に麻しん予防接種率の向上を目指して) 平成16年3月1日(月)~7日(日) 実施医療機関:約7000 乳幼児保健検討委員会の開催 会長諮問「乳幼児が心身ともに健やかに育つための諸課題(地域における連携、病後児保育のあり方等)」答申作成 平成15年度乳幼児保健講習会の開催 平成16年2月16日(日) 「育児と仕事を両立できる社会環境づくりを目指して」 対象:日本医師会会員 参加人数:約500人	35.保護者への心肺蘇生法の周知 「あなたにもできる心肺蘇生法」カードの作成・配布 作成部数:約200万部予定 配布先:都道府県・郡市区医師会 官公庁他 38.予防接種(三種混合・麻しん)の必要性の周知と 接種の勧奨の強化 麻しん等予防接種推進キャンペーン(子ども予防接種週間)の実施 乳幼児保健検討委員会の開催 平成16年度乳幼児保健講習会を開催予定 対象:日本医師会会員 参加人数:500人を予定

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
 -小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
22.(社)日本 家族計画協会	23.24.25.26.27.28.29.30.33.34.35.	23.24.25.26.27.28.29.30.33.34.35.機関誌『家族と健康』を通して、「健やか親子21」関連記事を積極的に取り上げる。 27.28.33.34.35.乳幼児事故予防セミナーの開催 1.期 日:平成15年10月4日(土)～10月5日(日) 2.会 場:人事労務会館(東京都品川区大崎) 3.参加者数:51名 4.後 援:厚生労働省・国土交通省・(社)日本助産師会・(社)母子保健推進会議 5.指 導:子供の安全ネットワーク・ジャパン 6.協 力:(社)日本自動車連盟(JAF) 7.内 容:<講義>「健やか親子21」における乳幼児の事故予防」 <講義>「我が国の子どもの事故の現状と対策」 <講義>「子どもの事故予防対策」 <講義>「子どもの事故予防の実態とチャイルドシート」 <実習>「いろいろなチャイルドシートを正しく装着するための実習」 <講義>「子どもの事故の情報収集システムと評価」 <事例研究>「子どもの事故予防の進め方」 8.講 師 緑園こどもクリニック 院長 山中龍宏 山梨大学大学院医学工学総合研究部 教授 山縣然太郎 誠仁會伊藤病院 副院長 伊藤將史 (社)日本自動車連盟 公益事業部 大野芳久 宮腰直人	小児保健医療水準を維持・向上させるための環境整備 23.24.25.26.27.28.29.30.33.34.35.機関誌『家族と健康』を通して、「健やか親子21」関連記事を積極的に取り上げる。 27.28.33.34.35.乳幼児事故予防セミナーの開催と予防啓発 1.第11回乳幼児の事故予防セミナーの開催 期 日:10月 9日(土)～10月10日(日) 会 場:桐杏学園(東京都豊島区) 対 象:保健師、助産師、看護師、保育士、看護教員、母子保健推進員、医師、看護教育関係者等 2.指導教材の開発と頒布

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
 -小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
22.(社)日本 家族計画協会		<p>1) 育児、事故予防などの推進に寄与する健康教育教材の開発並びに頒布 (1)子どもの事故予防データベース (http://www.jfpa.or.jp/14-jiko/index.html)</p> <p>(2)これで防げる子どもの事故・目で見る子どもの事故予防 定価262円(税込み) A判変型・32頁 / 表紙カラー・本文2色刷 緑園こどもクリニック院長 山中 龍宏 著 乳幼児の死亡原因の第一位は不慮の事故。この状況は数十年前から変化がありません。子どもの命が毎日脅かされている現状を私たちはどれだけ理解し、その解決策を持っているでしょうか。長年にわたり小児医療の中から子どもの事故に取り組み、予防と対策を訴え続けていた著者が、子どもの事故を未然に防ぐために、私たちが考え実行しなければならない事を、臨床経験にもとづいて書かれた親向けの冊子です。乳幼児の交通事故、誤飲、溺死など大人の責任としての予防対策をアドバイスしたパンフレットです。 ・目で見る子どもの事故予防 定価262円(税込み) A5判・32頁 / オールカラー 監修 緑園こどもクリニック院長 山中 龍宏 「ヒヤッ」とした経験はタイミングがずれていたら大事故になっていたかも知れません。この不慮の事故が毎年繰り返され、子どもの健康や命が失われています。子どもの事故予防は事前に予防策を講じるしか方法はありません。この冊子は事前に予防策を講じる方法とポイントが図説で紹介され、どうすれば子どもを守れるのかを具体的に示しています</p>	

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
 -小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
22.(社)日本 家族計画協会		<p>(3)誤飲防止ルーラー 定価 1セット2,000円(税別)(50枚入り) 厚紙、型抜き製、120×150mm 監修:緑園こどもクリニック院長 山中龍宏 朝日大学歯学部教授 田村康夫 行政(都道府県、保健所、市町村)・学校・幼稚園・保育園・病院・企業単位でのご注文はTEL:03-3269-4727までお問い合わせください。</p> <p>手軽な子どもの誤飲・窒息予防教材</p> <p>この誤飲防止ルーラーは母子健康手帳などのしおりとして使用しながら、誤飲と窒息予防を実践してもらおうグッズです。誤飲チェッカーと同じく科学的なデータにもとづいて制作されました。誤飲と窒息予防を考えると咽の奥までの長さも重要になります。楕円形に入るものは注意が必要です。母子健康手帳と一緒に母さんに渡し、日頃から乳幼児の誤飲事故予防に注意してもらいましょう。裏面にはためになる乳幼児のためのコラムが載っています。</p>	

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
 -小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
22.(社)日本 家族計画協会		<p>この黄色い積み木は誤飲防止ルーラーの円の中に入りますので、赤ちゃんの口に入ります。誤飲物を縦、横、斜めにして39mm、51mmの楕円形に入るようであれば、飲み込んだり窒息する危険があります。誤飲防止の目安にして下さい。</p> <p>SIDS(乳幼児突然死症候群)編 乳幼児突然死症候群(SIDS)の約8割がおおよそ生後6か月までにおこります。この誤飲防止ルーラーは予防のためのチェック項目が記載され手軽な啓発教材です。</p> <p>応急処置 心肺蘇生法編 心肺蘇生法は親として覚えておきたい応急処置の一つです。この誤飲防止ルーラーには、いざとというときに役立つ気道の確保、人工呼吸法、心臓マッサージを掲載いたしました。乳児と幼児の両方を記載しましたので、母子健康手帳に挟んでおくのとっさの時に役に立ちます。</p> <p>予防接種編 予防接種を受ける前は赤ちゃんの健康状態に注意をしなければなりません。この誤飲防止ルーラーは誤飲物をチェックできるほかに、予防接種を受ける前のチェック項目が記載されております。</p> <p>(4)誤飲チェッカー</p> <p>誤飲チェッカー 誤飲・窒息防止教材 定価 1個500円(税別) 透明アクリル製 監修: 緑園こどもクリニック院長 山中龍宏 朝日大学歯学部教授 田村康夫</p>	

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
 -小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
22.(社)日本 家族計画協会		<p>新しい子どもの誤飲・窒息予防教材 この誤飲チェッカーは子どもの誤飲や窒息を予防するために開発されました。乳幼児の口腔を計測するなど科学的な数値を求めて制作されたものです。子どもが誤飲しそうな物をチェックして子どもの誤飲事故を防止しましょう。</p> <p>誤飲チェッカーの使い方 チェッカーの中に隠れている鍵は、飲み込んだり窒息する可能性があります。また、隠れなくてもこの円筒の中に入る物は赤ちゃんの口に入ります。いろいろな物をチェックしてみましょう。</p> <p>子どもの口腔と誤飲チェッカーの側面図 この赤いチョークはチェッカーの中に隠れていますので飲み込む危険があります。タバコはこのチョークより細くて長いですからチェッカーに隠れませんが、柔らかいので折り曲げるとチェッカーの中に隠れてしまいます。したがって、たばこは赤ちゃんの口に入り飲み込んでしまう危険があります。</p> <p>誤飲チェッカーの使い方 チェッカーの中に隠れるものは、床から1m以上の高さに置きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3歳の赤ちゃんが口を開けたときの最大口径は約39mm、のどの奥までは約51mmありますので、その値を誤飲防止の目安にしましょう。 ・このチェッカーの中に隠れるものは、飲み込んだり、窒息する危険があります。 ・このチェッカーに隠れるものは、床から1m以上の高い場所に置くようにして下さい。 ・ご家族みんなで誤飲しそうなものをチェックしましょう。 	

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
 -小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
22.(社)日本 家族計画協会		<p>赤ちゃんが5か月になったら、誤飲チェッカーでチェックしましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生後5か月を過ぎると、赤ちゃんは何でも口に入れるようになります。 ・赤ちゃんはどんどん発達していきます。昨日手が届かなかったところに、今日は手が届くようになるのです。 ・赤ちゃんの手が届くところに口に入る大きさのものがあれば、必ず誤飲が発生します。 ・前もってチェックするしか確実な防止法はありません。 <p>図1 危険 すっぱり隠れる物体 これは口の中に入り、飲み込む危険があります。また、窒息する可能性もあります。(コイン、ボタン、指輪、スーパーボール、マグネット、ナッツ、キャンディーなど)</p> <p>図2 危険 細長い物体 串や箸のように長さが51mm以上あるものは飲み込めませんが、太さが39mm以下ですから口に入ります。口腔内を傷つけたり刺したりしますので危険です。</p> <p>図3 危険 折り曲がる物体 長さが51mm以上でも丸めたり折れたりするとチェッカーの中に隠れてしまうものは口の中に入り危険です。(タバコ、柔らかいゴム製品、銀紙、ばね類など)</p> <p>図4 安全 入らない物体 この球は直径が39mm以上あり、チェッカーの中に入りませんので口に入る危険がありません。</p>	

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
 -小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
22.(社)日本 家族計画協会		(5)IECパネル 子どもの事故予防シリーズ21点 IECパネル 子どもの事故予防シリーズ 21点 頒価 各1枚12,000円(税別) 名入れ可(名入れ印刷代 各1枚1,000円) A1判(841×594×10mm) / 特殊紙使用(PP加工) / ア ルミフレーム仕様 / 留め金・かけひも付 アルミフレームの他に下記の3種類のアイテムがありま す。 行政(都道府県、保健所、市町村)・学校・幼稚園・保育 園・病院・企業単位でのご注文はTEL:03-3269-4727まで お問い合わせください。 *ご希望に合わせたオリジナルパネルも制作しますので お問い合わせ下さい。 チャイルドシート編 179 ママの腕よりチャイルドシート 180 乳児期に多いだっこ乗車の事故 181 危険です。幼児期のそのまま着座 182 子どもには大人用シートベルトは使わない 183 乳児用:取り付けは進行方向後ろ向き 184 幼児用:正しく使用しないと予防効果なし 185 学童用:子どもに習慣づけようチャイルドシート	
22.(社)日本 家族計画協会		子どもの事故予防編 186 死亡原因のトップは「不慮の事故」 187 目を離した一瞬に起こる誤飲事故 188 窒息事故は非常に危険 189 乳幼児は転びやすい 190 やけどの多発は6か月から1歳半 191 乳幼児は少量の水でおぼれます 192 チャイルドシートなしは重大事故になる 193 ここをチェック、すぐ改善1 寝室・リビング 194 ここをチェック、すぐ改善2 キッチン・ダイニング・お食 事 195 ここをチェック、すぐ改善3 玄関・階段 196 ここをチェック、すぐ改善4 お風呂・洗面所・トイレ 197 ここをチェック、すぐ改善5 ベランダ 198 ここをチェック、すぐ改善6 お出かけ・公園 199 ここをチェック、すぐ改善7 レジャー	

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
 -小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
24.(社)日本看護協会	43	43.慢性疾患児等の在宅医療の支援体制の整備と充実 1.小児慢性疾患児の在宅ケア支援 1)退院調整に関するガイドラインの作成の検討 (目的)小児慢性疾患児の在宅ケア支援体制の整備と充実 (内容)病院から在宅ケアに移行する際の退院調整に関するガイドラインの作成に向けた検討 2.子どもの健康づくりにおける地域・学校保健連携支援事業の推進(厚生労働省委託・先駆的保健活動交流推進事業) 1)難病等長期療養児支援ボランティア育成モデル事業(和歌山県) (目的)病児とその家族の支援体制づくりを目指して、療養支援ボランティアの育成を行う (内容) 難病など長期療養児支援ボランティア育成連絡協議会の開催 ボランティア研修会の開催 夏休みキャンプの開催 療養支援しおりの作成 ボランティアフォローアップ研修会の開催 登録システムの整備 報告書作成	43.慢性疾患児等の在宅医療の支援体制の整備と充実 1.小児慢性疾患児の在宅ケア支援 1)退院調整に関する指針の作成 (目的)小児慢性疾患児の在宅ケア支援体制の整備と充実 (内容)「小児慢性疾患児の退院調整に関する指針」 医療機関から在宅ケアに移行する際の退院調整に関するガイドラインの作成 作成部数:30,000部 配布先:会員施設、各都道府県看護協会
25.日本公衆衛生学会	38.予防接種(DPT,麻疹)の必要性の周知と接種勧奨の強化	第62回総会(平成15年10月22日~24日、京都)において、「感染症予防に対する市町村の新しい取り組み」と題するシンポジウムを開催した。4名の演者のうち3名からは、麻疹の予防接種率向上とこれによる麻疹制圧に関する先駆的な発表があり、多くの参加を得た。	

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
 -小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
27.(社)日本 歯科医師会	62.(歯の健康の推進)幼児期のう蝕予防	62.(歯の健康の推進) *第52回母と子のよい歯のコンクールの実施 目的(テーマ):厚生労働省と日本歯科医師会の主催により3歳児歯科健康診査受診者及びその子供の母親もよい歯を保持している母子を選出し優秀者の表彰を行い、歯の健康保持に関する知識の普及啓発を図る。 参加人数(対象者):平成14年度に行われた全国の3歳児歯科健康診査の受診者(平成14年度受診者数1,029,466人)のうち、地方審査を経て、各都道府県から推薦のあった母子36組のなかから優秀な6組を選出し、優秀母子6組に対する厚生労働大臣表彰及び日本歯科医師会会長表彰は、11月15日(土)につくば国際会議場(茨城県つくば市)で開催された第24回全国歯科保健大会の式典で行った。 優秀母子6組 (都道府県)(母親)(ふりがな)(子供)(ふりがな) 茨城県 鴨志田 陽子 かもした ようこ 恒希 こうき 群馬県 新井 基代乃 あらい きよの 仁菜 にいな 埼玉県 梅津 尚子 うめづ なおこ 聖菜 せな 新潟県 笠原 由起子 かさはら ゆきこ 遥也 はるや 兵庫県 大本 幸加 おおもと さちか 詩うた 山口県 森元 由恵 もりもと よしえ 菜々子 ななこ 開催数、方法等:毎年1回	62.(歯の健康の推進) *第53回母と子のよい歯のコンクールの実施 目的(テーマ):厚生労働省と日本歯科医師会の主催により3歳児歯科健康診査受診者及びその子供の母親もよい歯を保持している母子を選出し優秀者の表彰を行い、歯の健康保持に関する知識の普及啓発を図る。 参加人数(対象者):平成15年度に行われた全国の3歳児歯科健康診査の受診者の中から地方審査を経て都道府県から中央審査会に申請のあった母と子を対象に優秀な6組を選出する。優秀母子6組に対する厚生労働大臣表彰及び日本歯科医師会会長表彰は、11月27日(土)に高松市で開催する第25回全国歯科保健大会の式典で行うこととしている

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
-小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
27.(社)日本 歯科医師会		<p>62(歯の健康の推進) 歯の衛生週間の実施 目的:歯の衛生に関する正しい知識を国民に対して普及啓発するとともに、歯科疾患の予防に関する適切な習慣の定着を図り、併せてその早期発見及び早期治療等を徹底することにより歯の寿命を延ばし、もって国民の健康の保持増進に寄与することを目的とする。 標語:「わたしの歯 みらいへつづく たからばこ」 重点目標:「地域に根ざした8020運動の展開」 地域において、8020運動のより実践的な展開を図り、地域の特色を踏まえた生涯を通じた歯の健康づくりを進めるため、「地域に根ざした8020運動の展開」を重点目標とする。 主催:(中央)厚生労働省、文部科学省、日本歯科医師会 実施要領及びポスターの配布による周知:中央及び地方の主催団体から実施要領を配布し周知徹底と普及啓発に努めるとともに日本歯磨工業会の協力により作成したポスターを28万枚作成、関係機関・団体等に配布した。</p>	<p>62(歯の健康の推進) 歯の衛生週間の実施 目的:歯の衛生に関する正しい知識を国民に対して普及啓発するとともに、歯科疾患の予防に関する適切な習慣の定着を図り、併せてその早期発見及び早期治療等を徹底することにより歯の寿命を延ばし、もって国民の健康の保持増進に寄与することを目的とする。 標語:「いつまでも すてきな笑顔と かがやく歯」 重点目標:「地域に根ざした8020運動の展開」 地域において、8020運動のより実践的な展開を図り、地域の特色を踏まえた生涯を通じた歯の健康づくりを進めるため、「地域に根ざした8020運動の展開」を重点目標とする。 主催:(中央)厚生労働省、文部科学省、日本歯科医師会 実施要領及びポスターの配布による周知:中央及び地方の主催団体から実施要領を配布し周知徹底と普及啓発に努めるとともに日本歯磨工業会の協力により作成したポスターを28万枚作成、関係機関・団体等に配布する。</p>
27.(社)日本 歯科医師会		<p>62(歯の健康の推進) 母子歯科保健推進協議会の開催 母子保健に関する法人格を持つ全国的組織である諸団体との意思の疎通を図るために、昭和52年に本協議会を設置し、地域社会における歯科保健事業の推進を目指して毎年1回開催している。平成15年度は、平成16年3月24日(水)に開催し、本会の推進する歯科保健事業に関し協力を要請するとともに、母子歯科保健の推進について懇談した。なお、母子保健推進会議の母子保健推進員向けの機関紙「母推さん」に平成15年度から歯科保健に関するページ「8020の里」に毎号原稿を提出し掲載されている。 [加盟団体] (社)母子保健推進会議、(社)全国保健センター連合会、(社)日本家族計画協会、 (社)母子衛生研究会、(財)日本母子衛生助成会、(社)日本栄養士会、(財)日本食生活協会、(財)日本公衆衛生協会、(社)全国私立保育園連盟、(社会福祉法人)恩賜財団母子愛育会、(社)日本歯科衛生士会、(社)日本歯科医師会</p>	<p>62(歯の健康の推進) 母子歯科保健推進協議会の開催 母子保健に関する法人格を持つ全国的組織である諸団体との意思の疎通を図るために、昭和52年に本協議会を設置し、地域社会における歯科保健事業の推進を目指して毎年1回開催している。本会の推進する歯科保健事業に関し協力を要請するとともに、母子歯科保健の推進について懇談している。なお、母子保健推進会議の母子保健推進員向けの機関紙「母推さん」に平成15年度に引き続き歯科保健に関するページ「8020の里」に毎号情報提供の原稿を提出することとしている。 [加盟団体] (社)母子保健推進会議、(社)全国保健センター連合会、(社)日本家族計画協会、 (社)母子衛生研究会、(財)日本母子衛生助成会、(社)日本栄養士会、(財)日本食生活協会、(財)日本公衆衛生協会、(社)全国私立保育園連盟、(社会福祉法人)恩賜財団母子愛育会、(社)日本歯科衛生士会、(社)日本歯科医師会</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
-小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
27.(社)日本 歯科医師会		<p>62(歯の健康の推進) 第22回保育所(園)・幼稚園表彰の実施 4～5歳児に及ぼすう蝕の影響性に鑑み、保育所(園)・幼稚園のう蝕の早期処置を勧めるとともに歯科保健指導が徹底している保育所(園)・幼稚園からの参加申し込みを受け、夏休み前と後の2回にわたる歯科健診の結果を、都道府県歯科医師会を経由して提出された調査票に基づき審査の上、応募のあった223ヶ所について「優秀」52「努力」125「参加」46の各賞を決定し表彰した。</p> <p>62(歯の健康の推進) 海外歯科問題フォーラムの開催 海外に派遣される労働者及びその帯同家族の歯科保健管理が問題化していることから、平成16年1月30日にフォーラムを開催し、約300名が参加した。 また、海外派遣労働者及びその帯同家族のための「お口の健康手帳」の試作版を作成し、配布した。</p>	<p>62(歯の健康の推進) 健康日本21リーフレットの発行 国民向けの歯の健康を保持増進することを目的にリーフレット 1「歯周病を防ぐ」、2「歯の喪失を防ぐ」を2種類発行し、都道府県歯科医師会を通じて約70万部を配布する。</p>
31.(社)日本 小児科医会	3.29.38.	<p>1) 麻疹予防接種の必要性の周知と接種勧奨の強化 子ども予防接種週間の開催 16年3月1日～7日、この間の土曜、日曜に1500の小児科医院で予防接種とアレルギーの小児の接種が加納かどうかのテストを施行 麻疹の根絶のためのポスター、子ども予防接種週間のPRポスターを配布 16年3月14日の日本小児科学会主催の麻疹根絶のための市民公開フォーラムに講師を派遣した 重症麻疹患者とワクチンの関係を調査</p> <p>2) 妊娠中の喫煙の防止・育児期間中の両親の自宅での喫煙防止 会員(6500名)に「タバコから子どもを守ろう」の冊子・解説書を送付し、外来でタバコ臭のある母親に禁煙を勧める</p>	<p>1) 麻疹予防接種の必要性の周知と接種勧奨の強化 子ども予防接種週間を日本医師会と一緒に主催する 平成12年から行っている重症麻疹患者とワクチンの既応の関係を継続して調査する配布 麻疹ワクチンの接種が1歳から1歳3ヵ月までに出来るだけ接種すること を啓蒙する。そのためのポスターを作成し配布する</p> <p>2) 妊娠中の喫煙の防止・育児期間中の両親の自宅での喫煙防止 会員全員に送付した「タバコから子どもを守ろう」の冊子・解説書をタバコ臭のある母親に見せながら、子どもへの受動喫煙の恐ろしさを説明する 禁煙の決意をした母親に、禁煙補助剤(ニコチン置換療法)を説明する</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
 -小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
32.(社)日本小児科学会	38.39.40.41.番外.	<p>38. 予防接種(三種混合・麻疹)の必要性の周知と接種の勧奨の強化</p> <p>(1)麻疹の制圧に関する提言を行った。</p> <p>(2)麻疹に関する国際シンポジウムを開催した。 日時:平成16年1月17日 場所:ロイヤルパークホテル</p> <p>(3)麻疹に関するフォーラム「麻疹(はしか)ゼロに向けて」を開催した。 日時:平成16年3月14日 場所:東京慈恵会医科大学講堂</p> <p>(4)予防接種後健康状況調査集計報告書について解説書の作成を行った。</p> <p>(5)「予防接種ガイドライン」および「予防接種と子どもの健康」の改定を行った。</p> <p>39. 初期、二次、三次の小児救急医療体制の整備</p> <p>(1)小児救急公開フォーラム「小児救急の大切さを皆で考えよう!」を開催した。 日時:平成16年1月18日 場所:東京ウイメンズプラザ 参加人数:250名</p> <p>その他:市川光太郎氏製作によるパンフレット「子どもの事故と対策」を配布した。</p> <p>(2)「小児救急連絡協議会」を設立した。 構成:日本小児科学会、日本小児科医会、日本医師会、日本小児救急学会、厚生労働省(医政局指導課)、日本小児外科学会</p> <p>(3)「日本小児科学会の考える小児医療提供体制」を発表した。</p> <p>(4)「小児医療体制改革の目標と作業計画」をまとめた。</p>	<p>25. 新生児死亡/乳児(1歳未満)死亡の防止 正常新生児管理基準を完成させる。</p> <p>38. 予防接種(三種混合・麻疹)の必要性の周知と接種の勧奨の強化 麻疹の制圧に向けた啓蒙活動を継続していく。</p> <p>39. 初期、二次、三次の小児救急医療体制の整備</p> <p>(1)「日本小児科学会の考える小児医療提供体制」および「小児医療体制改革の目標と作業計画」に基づき、各地区代議員を中心に、地区の小児科医会、医師会などとの協力の下に、作業計画を地区の実態に応じたものに修正していく作業を行う。</p> <p>40. 関係機関での事故防止対策の推進 平成15年度に設置された医療安全委員会において、医療事故の要因分析をおこない、防止のための対策をまとめる。</p> <p>41. 小児科医師・新生児科医師・児童精神科医師の確保と養成</p> <p>(1)新初期臨床研修制度のもとでの小児科研修の実態を明らかにし、初期研修をより有意義なものにするための活動を行う。</p> <p>(2)女性医師を中心とした小児科医の人的資源の効果的な活用法を検討していく。</p> <p>(3)注意欠陥/多動性障害、高機能自閉症、アスペルガー障害、学習障害についての基本的な概念の理解を進めるための解説、啓蒙活動を行っていく。</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
 -小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
32.(社)日本小児科学会		<p>40. 関係機関での事故防止対策の推進 医療安全委員会を設置し、活動を開始した。</p> <p>41. 小児科医師・新生児科医師・児童精神科医師の確保と養成 (1) 新初期臨床研修制度のもとでの新生児研修の研修案を作成した。 (2) 女性医師の職域での環境改善をテーマに日中米の国際意見交換会を持った。 場所:ロイヤルパークホテル 時間:平成16年1月16日 (3) 小児科女性医師フォーラム「小児科女性医師がその特性も活かし国民の医療要求に応えるために - 今我々ができること -」を、「小児科産科若手医師の確保 / 育成に関する研究班」との共催で開催した。 場所:東京女子医科大学大会議室 時間:平成16年2月14日</p> <p>番外. 子どもの権利に関する活動 (1) こどもの脳死臓器移植に関する活動として、倫理委員会から、提言「小児脳死はどうあるべきか」を発表した(日児誌 107:954-958, 2003)。 (2) 倫理委員会から、「論文や学会・研究会等で使用される患児の顔写真その他の取扱いについてのガイドライン」を発表した(日児誌 107:168-171, 2003)。</p> <p>番外. 少子化対策 子どもと環境の接点にいる小児科医の立場から、子どもの健全な発育・発達のために必要な諸問題について検討し、提言をまとめた。</p>	<p>42. 院内学級・遊戯室等の小児病棟施設の充実 病棟保育士に関する実態調査を行う。</p> <p>番外. 子どもの権利に関する活動 こどもの脳死臓器移植に関する問題点を、虐待による脳死の問題などを子どもの人権を守る立場から検討していく。</p> <p>番外. 少子化対策 平成15年度は、子どもと環境の接点にいる小児科医の立場から、子どもの健全な発育・発達のために必要な諸問題について検討し、提言をまとめたが、この提言に基づいた具体的な行動目標を作成する。</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
-小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
33. 日本小児看護学会	39.43.小児の臓器移植	<p>3.9 初期、二次、三次の小児救急医療体制の整備 < 研究活動 > 小児救急看護師教育過程作成を行った。 【小児救急の現状】 小児救急医療の特徴として、1次 3次までの救急ニーズが混在する。また、小児救急を標榜していたとしても成人救急患者も含めた一般救急外来において受診する現状である。救急医療体制としては小児科医の不足が指摘され小児特有な状況の把握の難しさが言われている。看護体制にしても小児看護経験を有している看護師が必ずしも配置されているとは言えず、小児への対応困難が指摘されている。 【小児救急看護師教育過程作成の目的】 1. 少子・核家族化する小児・育児環境の中で社会問題となっている小児救急において、最新の身体・心理・社会的知識・技術を持ち自立して対応できる看護師を育成する。 2. 小児救急看護師の育成を通して、医師をはじめとして他職種とともに小児救急医療の水準の向上を図る。 3. 小児救急看護師の育成を通して、求められる小児救急医療の提供に寄与するだけでなく、虐待の早期発見、育児力を高める役割を地域社会の中で担い、子どもと家族のおかれている環境の改善に取り組む。 【内容】 小児救急看護教育に必要な教育課程の構築のために、現在小児専門病院および総合病院の救急外来などにおいて小児救急の指導的役割を取っている看護師、および小児看護教育者をメンバーとして、小児救急看護師教育プログラムの作成を行い、内容は次年度も精錬を行っていく。また、現在日本看護協会が行っている認定看護師制度に、小児救急認定看護師も盛り込むべく活動していく。</p>	<p>39.43.小児の入院環境・体制の整備 3.9 初期、二次、三次の小児救急医療体制の整備 < 研究活動 > 平成16年度は、この小児救急看護師の研修プログラムの内容精練および実施を行い、さらにすでに日本看護協会が実施している認定看護師プログラムのも視野に入れながら、教育方法の開発も行う。また、小児救急看護師の活用に関して、小児救急看護師の能力が発揮でき、かつ小児救急に携わるコメディカルそれぞれが本来の能力を発揮できるようなシステム構築も検討していく。 4.3 慢性疾患児等の在宅医療の支援体制の整備と充実 < 研修会の開催 > 昨年度に引き続き、「小児慢性疾患児の在宅療養のためのケアマニュアルの開発およびケア提供者の教育に関する事業」について、開催地域を変えて研修会を実施し、在宅療養の子どもや家族への支援のあり方について啓発を図る。 小児の入院環境・体制の整備 < 学術集会の開催 > 日本小児看護学会第14回学術集会を宮崎県で開催し、テーマを「小児看護とケア環境 - 人と場とシステムからのアプローチ - 」とし、子ども達が入院している病院・施設、在宅におけるケア環境が、子どもの生活や病気・治療体験にどのように影響しているか、看護は何をすべきかを考える。シンポジウム・テーマセッション・一般演題の中で、小児看護の臨床家・教育者・研究者が集って小児の入院環境・体制の整備等について理解を深める。</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
 -小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
33. 日本小児看護学会		<p>4.3 慢性疾患児等の在宅医療の支援体制の整備と充実 < 研修会の実施 > 目的: 「小児慢性疾患患児の在宅療養のためのケアマニュアルの開発およびケア提供者の教育に関する事業」について助成金を受け、在宅の子どもや家族への支援に貢献しうる実践活動へとつなげるため、「気管切開を行って退院する子どもと家族へのケアマニュアル活用術」の研修会を実施した。</p> <p>参加者: 関東圏の病院等で勤務する看護師約100名 開催状況: 学会主催で、2日間に渡り、東京で実施。研修プログラムは、1日目に病態の講義、気管切開をしている子どもの家族の講演、家族支援の基本的知識、在宅に欠かせない社会資源の知識の講義、2日目に、ケアマニュアルの説明および、子どもや家族の意思決定を支えるコミュニケーション能力を高めるロールプレー、その後参加型のロールプレーを行った。</p> <p>結果: 100名の定員のところ150名の応募があった。在宅ケアの関心は高く、研修会においても活発な意見交換が行われ、アンケートにおいても内容の理解など受講者の満足度が高かった。</p> <p>< 地方会の実施 > 目的: 小児医療・看護の質の向上のための啓蒙を目的に、全国各地で年1・2回地方会を開催している。</p> <p>参加者: 看護師・保健師・養護教諭・看護教員など約70名 開催状況: 「慢性疾患を持つ子どもと家族」と医療・学校関係者の協働」をテーマに、甲信越地区で開催し、「これからの特別支援教育のあり方」の講演後、慢性疾患の子どもを取り巻く様々な職種や家族によるシンポジウムが行われた。</p>	
33. 日本小児看護学会		<p>結果: シンポジウムの中で、子どもと家族、看護職、学校関係者と、どのように協働していくのがよいかについて意見交換を行い、お互いが相手のことを知ること、顔を合わせて話し合うことが協働・連携の第一歩であることなどの意見が挙がった。</p> <p>小児の臓器移植 < 学会としての提言 > 小児の臓器移植の検討がなされているが、学会として、移植を容認しながらドナー、レシピエント双方をサポートできる体制とはどのようなことが検討を行ってきた。その上で、臓器移植に精通する各職種の参加を得てヒアリングを行い、さらに後日、小児の臓器移植に関するアンケートを学会員あてに行い、まとめたものを参考に、理事会・評議員会で検討し学会のスタンスとしてホームページなどを通して公表予定である。</p>	

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
 -小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
34. 日本小児救急医学会	31.32.33.35.39.	31.かかりつけ小児科医制度の推進 32.夜間・休日の小児救急医療機関の保護者への周知 33.家庭での事故防止対策の推進 35.保護者の心肺蘇生法の周知 *研修会を実施 目的(テーマ):小児危急疾患(内科的・事故外傷)の 応急処置と対応及び家庭内での対応の心構えを周知徹底 参加人数(対象者):約200名(乳児を持つ若い保護者達、保育園・幼稚園関係者) 開催等:1回(日本小児救急医学会学術集会の公開講座として)埼玉県さいたま市で、平成15年6月20日3時間 効果、その他:かなりの質問が殺到し、実際に保育現場での情報混乱の整理にかなり効果があったものと思われる 39.初期、二次、三次の小児救急医療体制の整備 *小児救急医学会学術集会でシンポジウム 目的(テーマ):地域間格差の強い救急医療体制の拡充方法の解決 参加人数(対象者):約150名(小児医療関係者) 開催等:1回(日本小児救急医学会学術集会) 埼玉県さいたま市で、平成15年6月21日4.5時間 効果、その他:議論伯仲し、とても有意義な会であった。詳細は日本小児救急医学会雑誌2巻2号2003に掲載	31.32.33.35.39.44.45.59. 子どものメンタルケアへの小児科医の関わり 第18回日本小児救急医学会学術集会とその市民公開講座において、平成16年6月17日18日19日、石川県金沢市で開催予定 一般講演広く市民に子ども達の健全育成の重要性を啓蒙する予定である 子どものメンタルケアへの小児科医の関わり 上記学会にて、招聘講演を行い、慶応大小児科の渡辺久子氏に2時間の講演を御願している

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
 -小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
39. 日本赤十字社	14.15.19.23.24.25.26.27.37.38.49.52.54.55.60.61.62	<p>テーマ25,26,27,37,38,49,52,54,55,60,61,62</p> <p>*乳幼児健康相談:全国で64の赤十字病(産)院で実施 テーマ25,26,27,37,38,49,52,54,55,60,61,62</p> <p>*小児健康相談:全国で56の赤十字病院で実施</p> <p>、 について、「母子保健医療推進の認識の醸成に努めるとともに自治体等との連携を図りながら、赤十字病院として実施可能な事項についてさらなる推進について取り組むこと。」を念頭に「小児保健医療水準を維持・向上させるための環境整備」の課題について、上記の多数のテーマを総合的に、看護師・助産師・医師を中心に多くの赤十字病院にて実施した。</p> <p>テーマ14,15,19,23,24,25,26,36,53,60</p> <p>*総合周産期母子医療センター:全国で7の赤十字病院に設置</p> <p>*地域周産期母子医療センター:全国で10の赤十字病(産)院に設置</p> <p>*新生児特定集中治療管理室:全国で32(396室)の赤十字病(産)院に設置</p> <p>について、出産前後の母体及び胎児並びに新生児の一貫した診療・管理等を行った。</p>	<p>テーマ25,26,27,37,38,49,52,54,55,60,61,62</p> <p>*乳幼児健康相談 テーマ25,26,27,37,38,49,52,54,55,60,61,62</p> <p>*小児健康相談</p> <p>、 について、「母子保健医療推進の認識の醸成に努めるとともに自治体等との連携を図りながら、赤十字病院として実施可能な事項についてさらなる推進について取り組むこと。」を念頭に、15年度に引き続き「小児保健医療水準を維持・向上させるための環境整備」の課題について、上記の多数のテーマを総合的に、看護師・助産師・医師を中心に実施すること。</p> <p>テーマ14,15,19,23,24,25,26,36,53,60</p> <p>*総合周産期母子医療センター :全国で7の赤十字病院に設置</p> <p>*地域周産期母子医療センター :全国で10の赤十字病(産)院に設置</p> <p>*新生児特定集中治療管理室 :全国で32(396床)の赤十字病院に設置</p> <p>について、出産前後の母体及び胎児並びに新生児の一貫した診療・管理等を引き続き行うこと。</p>
39. 日本赤十字社	<p>・こどもに起こりやすい事故の予防と救命手当・応急手当の方法、病気への対応のしかたについて、一層の普及を図ること。 (25.27.28.31.32.33.34.35.36.37.38.40)</p>	<p>指導体制の強化</p> <p>・赤十字幼児安全法指導員養成講習会の開催 5回 46人</p> <p>・概要:赤十字幼児安全法の指導者を養成するための講習会を開催した。</p> <p>教材の整備</p> <p>・赤十字幼児安全法の一層の普及を図るため、視聴覚教材(ビデオ)、小冊子を日本赤十字社各都道府県支部等で活用するとともに、(株)日赤会館を通じて一般の方へ頒布した。</p>	<p>小さなこどもをもつ親やこどもを預かる保育園、幼稚園等の職員を対象とした講習会を全国的に展開する。</p> <p>こどもを社会全体で大切に育てていく社会的環境を整備する一助として、赤十字幼児安全法の一層への周知について、広報活動を実施する。</p> <p>指導体制の一層の強化を図るため、引き続き全国的な指導者の養成を行う。</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
-小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
44.日本母性衛生学会	23.24.25.	<p>小児保健医療水準を維持・向上させるための環境整備学会誌での取組</p> <p>23 周産期死亡の防止 「母性衛生」44巻4号 周産期医療過誤訴訟における民法上の問題 損害賠償に関する胎児の権利能力 (山崎由美子)</p> <p>24 極低出生体重児・低出生体重児の出生数の減少 「母性衛生」44巻1号 妊婦におけるY-G性格検査と自己評価の一致性およびIUGR妊娠妊婦における心理状態分析(森久保俊満他)</p> <p>総会・学術集会での取組 参加人数 約2000名(医師・助産師・看護師・保健師など) 開催 第44回日本母性衛生学会学術集会 期日 平成15年10月9・10日 場所 栃木県宇都宮市栃木県総合文化センター</p> <p>23.周産期死亡の防止 24.極低出生体重児・低出生体重児の出生数の減少 25.新生児死亡/乳児(1歳未満)死亡の防止 「目的」 上記のテーマについて栃木県の周産期医療を中心に講演された。 「効果」 会長講演(会長佐藤郁夫)において周産期医療の現況と課題が示された。</p>	<p>23,24,25,26,27,28,29,30,31,32,33,34,35</p> <p>小児保健医療水準を維持・向上させるための環境整備学会誌での取組 年4回発行予定の学会誌「母性衛生」での取組を推進する。</p> <p>総会・学術集会での取組 本年度第45回日本母性衛生学会学術集会において下記の講演を実施し、これらのテーマについて会員の理解と対策を深めるとともに、総合討論を行い検討考察する。 予定参加人数 約2000名(医師・助産師・看護師・保健師など) 開催 第45回日本母性衛生学会学術集会 期日 平成16年9月16・17日 場所 東京都 京王プラザホテル</p> <p>29.妊娠中の喫煙の防止・育児期間中の両親の自宅での喫煙の防止 母子の健康と禁煙対策についてシンポジウムで取り上げ、その防止を推進する。</p>
44.日本母性衛生学会		<p>25.関係機関での事故防止対策の推進 「目的」 医療事故者数の減少のため。 「効果」 福井トシ子先生(杏林大学医学部付属病院看護部部長)によりセーフティ・マネジメントの実際と展望について教育講演が行われた。</p>	

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
-小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
48.(社)日本理学療法士協会	26.43.	<p>2.6.乳児のSIDS死亡の防止 * インターネットによる広報活動 11月の「SIDS防止月間」では、当協会のホームページにてパンフレットを用いて啓発活動を行った。</p> <p>4.3.慢性疾患児等の在宅医療の支援体制の整備と充実 * 療育マップの作成について検討した。 ・ 肢体不自由や病弱児の理学療法(含む運動療法)が行える施設や事業所の場所・連絡先・サービス内容・等をまとめた冊子の作成を検討中</p>	<p>2.6乳児のSIDS死亡の防止 * インターネットによる広報活動 11月の防止月間に協会のホームページにてパンフレット等を掲載する。</p> <p>4.3慢性疾患児等の在宅医療の支援体制の整備と充実 * 療育マップの作成(検討課題) ・ 肢体不自由や病弱児の理学療法(含む運動療法)が行える施設や事業所の場所・連絡先・サービス内容・等をまとめた冊子を作成する。 ・ 上記情報をインターネット(健やか親子21ホームページからのリンク)で発信できるように検討する。 * 慢性疾患児・病弱児・肢体不自由児・等の在宅支援体制のあり方を検討 ・ 上記のような子どもへの理学療法の地域支援について考えてゆく。</p>
49.(財)母子衛生研究会		<p>「健やか親子21」課題1～4に関すること全般 * 「母子保健指導者研修会」の実施 目的:母子保健に関する正しく且つ新しい情報の伝達。 参加人数(対象者):10,500名(行政担当者、保健師、助産師、栄養士、保育士、その他母子保健・児童福祉関係者) 開催数、方法等:46回(厚生労働省、開催地区自治体、関係団体等の後援にて開催) 全国都道府県で実施 効果、その他:妊婦や育児中の母親と直接接する関係者に最新情報を提供することで、育児不安や虐待等母子保健が直面している問題の一助となることが期待される。 * 「これからの母子保健を考えるシンポジウム」の実施 目的:母子保健の懸念されている事柄について、問題提起とその対応について考える。 参加人数(対象者):350名(行政担当者、保健師、助産師、栄養士、保育士、その他母子保健・児童福祉関係者) 開催数、方法等:1回(厚生労働省、関係団体等の後援にて開催) 東京都で実施 効果、その他:各方面の専門家の意見を聞くことで、問題がより明白となり、多角的に問題に取り組めることが期待される。</p>	<p>「健やか親子21」課題1～4に関すること全般 * 「母子保健指導者研修会」の実施 参加人数:10,500名(行政担当者、保健師、助産師、栄養士、保育士、その他母子保健・児童福祉関係者)を予定。 開催数、方法等:47回(全国都道府県で実施予定) * 「これからの母子保健を考えるシンポジウム」の実施 参加人数:350名(行政担当者、保健師、助産師、栄養士、保育士、その他母子保健・児童福祉関係者)を予定 開催数、方法等:1回(東京都で実施予定)</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
 -小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
49.(財)母子衛生研究会	23.25.26.27.28.29.30.33..35.38.	23、25～30、33、35～38等育児全般に関すること ＊パンフレットの作成・配布 目的:妊娠・出産・育児についての基本的な知識、情報を得ることにより、快適で充実した妊娠・出産・育児期を過ごすことをねらいとした母子健康手帳の副読本 「赤ちゃん - そのしあわせのために」を作成し、配布する 配布対象者:関係機関(地方自治体等)を通じて妊娠届出者に配布 配布部数:1,500,000部 効果、その他:妊娠中や育児期の母子の健康管理、事故防止を含めた家庭における育児環境の整備がはかれる。 28、33、35等乳幼児期の事故防止に関すること ＊パンフレットの作成・配布 目的:乳幼児期における事故防止と応急手当についての基本的な知識、情報を得ることにより、家庭における育児環境の整備をねらいとした冊子「わが家の安心ガイドブック」の作成・配布 配布対象者:関係機関(地方自治体等)を通じて妊娠届出者等に配布 配布部数:1,200,000部 効果、その他:事故防止の観点から、家庭における育児環境の整備がはかれる。	23、25～30、33、35～38等育児全般に関すること ＊パンフレットの作成・配布(継続実施) 母子健康手帳副読本「赤ちゃん - そのしあわせのために」の作成・配布 28、33、35等乳幼児期の事故防止に関すること ＊パンフレットの作成・配布(継続実施) 冊子「わが家の安心ガイドブック」の作成・配布

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
 -小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
50.(社)母子保健推進会議	28.29.33.45.46.48.49.58.60.62.	<p>1 平成15年母子保健家族計画全国大会(健やか親子21全国大会)の開催 本会議・厚生労働省・(社)福・恩賜財団母子愛育会・(社)日本家族計画協会・富山県・富山市の主催により開催するとともに永年地域母子保健活動に貢献のあった団体と個人に本会議会長表彰を行った。 平成15年11月6日(木) 特別講演「40歳からの自分さがし」 講師 タレント 山田邦子 聞き手 (社)日本家族計画協会クリニック所長 北村邦夫</p> <p>平成15年11月7日(金) シンポジウム テーマ「子どもの生と性～親と子のコミュニケーションから見えてくること～」 コーディネーター 済生会富山病院産婦人科医長 種部恭子 シンポジスト (社)日本家族計画協会クリニック事務長 杉村由香理 福岡県立大学看護学部教授 松浦賢長 真生会富山病院心療内科部長 明橋大二</p> <p>2 第3回母子保健推進員全国大会の開催 平成15年11月7日(金)富山県民会館において本会議、富山県、富山市、全国母子保健推進員連絡協議会の主催、厚生労働省他21団体の後援により1,000名の母子保健推進員及び関係者を集め、開催した。</p>	<p>1 平成16年母子保健家族計画全国大会の開催 宮城県仙台市で開催される大会に主催団体として企画・準備・運営等を行う。 期 日:平成16年11月16日(火)17日(水)18日(木) 会 場:宮城県民会館</p> <p>2 社団法人母子保健推進会議会長表彰の実施 宮城県仙台市で開催される「平成16年母子保健家族計画全国大会」において、地域の母子保健活動に従事され功績を挙げられた地域組織や個人に対して社団法人母子保健推進会議会長表彰を行う。</p> <p>3 第4回母子保健推進員全国大会の開催 開催日:平成16年11月18日(木) 会 場:宮城県民会館</p> <p>4 全国母子保健推進員連絡協議会活動報告会の開催 厚生労働省・全国自治体・母子保健推進員協議会代表に参加いただき、全国母子保健推進員連絡協議会組織育成・活動報告、情報交換を行う。</p> <p>5 母子保健推進員教育事業 (1)ブロック別母子保健事業研修会の開催 本会議、開催県、(社)日本家族計画協会、(社)全国保健センター連合会との共催、厚生労働省、(社)日本助産師会の後援により5ブロック(6会場)で母子保健推進員、母子保健事業に従事する関係者を対象に開催する。</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
-小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
50.(社)母子保健推進会議		<p>特別講演「健やか親子21 母子保健推進員活動に期待するもの」 座長 和歌山県母と子の健康づくり運動協議会 会長 狭間歌子 演者 厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課 課長 谷口隆 活動報告「大門町における地域母子保健活動の実際」 座長 長野県保健補導員会等連絡協議会 会長 伊藤氣雪 演者 富山県大門町保健センター 所長 宮本絹枝 富山県大門町母子保健推進員協議会 会長 山本芳子 富山県大門町母子保健推進員協議会 会員一同 記念講演「住民参加から住民が主役に～須坂の母ちゃん、頑張る～」 座長 (社)母子保健推進会議 常務理事 原澤勇 演者 長野県在宅看護職の会 顧問 大峽美代志 大会宣言 富山県母子保健推進員連絡協議会 会長 川岸みづほ</p> <p>3 (社)母子保健推進会議会長表彰 1) 団体 2) 個人</p> <p>4 全国母子保健推進員連絡協議会活動報告会の開催 日 時:平成15年11月6日(木) 17:15 ~ 20:00 会 場:富山県民会館 701号室 内 容:1.母子保健推進員活動報告 2.協議事項 3.情報交換 出席者:52名(厚生労働省担当課、県・市町村母子保健担当者、母子保健推進員代表および関係者)</p>	<p>(2)母子保健推進員研修会の開催 「健やか親子21」の一層の推進をめざし、沖縄県など18県で開催。地域母子保健事業の最前線で活動する母子保健推進員等の資質向上をはかる。 (3)母子保健推進員県外交流特別研修会の開催 地域母子保健活動の向上をはかるために、他市町村の母子保健推進員活動視察を行い、市町村母子保健担当者ならびに母子保健推進員相互の交流をはかる。 (4)沖縄県母子保健特別対策の実施 沖縄県母子保健事業の促進をはかるため、沖縄県において母子保健推進員、市町村職員を対象に研修会を実施する。 (5)母と子の健康を守るつどい 母子保健推進員の地域活動を支援し、その地方特有の郷土文化の掘り起こしをおこない、地域連帯感の高揚をはかる「母と子の健康を守るつどい」を山口県等で開催し、母子保健関係者と地域住民との交流により母子保健の啓発、促進をはかる。 (6)都道府県母子保健推進員協議会組織育成事業 母子保健推進員の育成と全国的な組織活動を支援するため都道府県母子保健推進員協議会に対して育成費の助成を行う。</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
 -小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
50.(社)母子保健推進会議		<p>5 母子保健推進員教育事業</p> <p>(1)ブロック別母子保健事業研修会の開催 本会議、開催県、(社)日本家族計画協会、(社)全国保健センター連合会との共催、厚生労働省、(社)日本助産師会の後援により5ブロック(6会場)で母子保健推進員、母子保健事業に従事する関係者を対象に開催した。</p> <p>1) 東北・北海道ブロック(岩手県) 150名 2) 関東・甲信越ブロック(埼玉県) 106名 3) 東海・近畿・北陸ブロック(三重県) 85名 4) 中国・四国ブロック(島根県) 164名 5) 九州ブロック(福岡県) 176名 6) 北海道(札幌市) 320名</p> <p>(2)母子保健推進員研修会の開催 市町村母子保健事業促進と母子保健推進員の資質向上をはかるため、母子保健担当者及び母子保健推進員を対象に、厚生労働省の後援により次の各県で研修会を開催した。</p> <p>主な研修会の内容は、</p> <p>1) 母子保健推進員活動 2) こどもの事故防止 3) 乳児期の歯科保健 4) 子育て支援(こころを育てる、絵本・ことばのよろこび) 5) 歯科保健 6) 子どもの虐待 7) 思春期保健</p>	<p>(7)母子保健指導書の制作配布 母子保健推進員を対象とする指導書を制作する。</p> <p>1) 指導書(手帳) (表題)「母子保健推進員」 (制作数) 約2,000部</p> <p>2) リーフレット (表題)「丈夫な赤ちゃんを生み育てましょう」 「元気に育てよう 私の赤ちゃん」 (制作数) 約20,000部×2種 (配布先) 母子保健推進員(研修会参加者)</p> <p>6 本会議機関紙「地域母子保健情報紙-母推さん-」 「地域母子保健情報紙-母推さん-」を毎月1日(116～127)発行し、都道府県・保健所・市町村および母子保健推進員協議会等関係機関に配布する。</p> <p>7 子育て支援グループ育成事業 住民主体の「育児を考える母親のつどい」を和歌山県、石川県で開催し、育児不安の解消など子育て支援の推進をはかる。</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
-小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
50.(社)母子保健推進会議		<p>開催日県参加人数</p> <p>平成15年 5月23日(金)山 口 750人</p> <p>5月26日(月)佐 賀 600人</p> <p>7月9日(水)富 山 250人</p> <p>9月25日(木)岐 阜 500人</p> <p>10月14日(火)鹿 児 島 620人</p> <p>11月5日(水)新 潟 350人</p> <p>11月7日(金)富 山 1,000人</p> <p>11月11日(火)青 森 200人</p> <p>12月 4日(木)宮 城 150人</p> <p>12月15日(月)長 野 80人</p> <p>平成16年1月29日(木)栃 木 380人</p> <p>平成16年1月15日(木)沖 縄 800人</p> <p>1月30日(金)茨 城 350人</p> <p>6,030人</p> <p>(3)沖縄県母子保健特別対策の実施 沖縄県母子保健事業の促進をはかるため、沖縄県において母子保健推進員、市町村母子保健担当者を対象に、平成16年1月15日(木)に宜野湾市民会館で、800名の母子保健関係者が参加して研修会を開催した。</p>	<p>8 母子保健に対する知識の普及啓発活動</p> <p>10月を「母子保健強調月間」とし、厚生労働省の後援、(社)日本産婦人科医会など、会員団体の協力を得て次の事業を行う。</p> <p>妊産婦、乳幼児の健康診査受診勧奨ポスターの制作配布</p> <p>(表 題)「ママと赤ちゃんの健康チェック」</p> <p>支えよう21世紀の健やか親子・健診を忘れずに受けましょう</p> <p>働く女性・事業主の皆さん「母健連絡カード」を利用しましょう</p> <p>「健やか親子21」国民運動の推進</p> <p>(主 唱) 社団法人 母子保健推進会議</p> <p>(制作数) 約45,800枚</p> <p>(配布数) 都道府県、政令市、医療機関、関係諸団体</p> <p>9 母子歯科保健知識の普及活動</p> <p>母子保健対策の重要な一環として、母と子の歯科保健知識の普及をはかるため、テキスト、リーフレットの制作並びに研修会を開催する。</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
 -小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
50.(社)母子保健推進会議		(4)母と子の健康を守るつどい 母子保健推進員の地域活動を助成し、県民の乳幼児保育に対する意識の向上と地域連帯感の高揚をはかるため「母と子の健康を守るつどい」を次の県で開催した。 開催日：平成15年10月5日(日) 県：山口 会場：柳井市保健センター 参加人数：200人 (5)母子保健指導書の制作頒布ならびにリーフレットの制作配布 母子保健推進員に対する指導書及び推進員訪問活動用リーフレットを制作配布し、母子保健事業の教育並びに啓発を行った。 1)指導書 〔表題〕「母子保健推進員」 〔規格〕A6 本文P68 〔制作数〕1,500部 〔配布先〕母子保健推進員 2)リーフレット 〔表題〕「丈夫な赤ちゃんを生ま育てましょう」「元気に育てよう 私の赤ちゃん」 〔規格〕B6 3ツ折り 〔制作数〕20,000部×2種 〔配布先〕母子保健推進員(研修会参加者)	(1)母子保健推進員、保健師、学校関係者の歯科保健教育研修会の開催 「母と子の歯科保健知識の普及運動」とあわせて関係各県の母子保健推進員及び保健師、学校関係者に対して、歯科保健教育研修会を新潟県等で行う。 (2)歯科保健に関するテキストの制作配布 〔表題〕ダブルファイル「キシリトールでむし歯予防」「歯ブラシはこまめに替えよう」 〔制作数〕約7,750部 〔配布先〕母子保健推進員研修会、歯科保健指導者研修会の参加者 (3)歯科保健パンフレットの委託制作 愛知県及び三重県歯科医師会より委託を受け制作・配布する。 (4)母子歯科保健教材セットの配布事業 1.6歳児及び3歳児健診の歯みがき教室の指導教材として、母子歯科歯ブラシセット約56万セットを花王株式会社の協力により配布する。 (5)歯科保健に関するリーフレットの制作配布 母と子の歯科保健知識の普及運動推進のためリーフレットを制作し、都道府県・政令市並びに研修会々場で配布する。 〔表題〕「おかあさんといっしょに よい歯でよくかむ よい子ども」 〔制作数〕約750,000部 〔配布先〕都道府県、政令市、各県研修会場

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
-小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
50.(社)母子保健推進会議		<p>(6)都道府県母子保健推進協議会の組織育成事業 母子保健推進員の育成と全国的な組織活動を支援する 都道府県母子保健推進協議会に対して育成費の助成 を行った。 富山県母子保健推進員連絡協議会 長野県保健指導員会等連絡協議会 新潟県母子保健推進協議会 和歌山県母と子の健康づくり運動協議会 山口県母子保健推進協議会 佐賀県母子保健推進協議会</p> <p>6 本会議機関紙「地域母子保健情報紙 - 母推さん -」の 刊行 地域母子保健担当者を対象として、機関紙「地域母子保健 情報紙 - 母推さん - (A4判)を毎月発行し、全国の都道 府県・保健所・市町村母子保健関係者等に配布した。 104号～115号</p> <p>7 子育て支援グループ育成事業 地域住民の参加により、子育て問題をテーマとする「母子 保健・健全育成住民会議」を次の各県で開催した。 主な研修会の内容は 1)子育て支援とは 2)子育てと家族 3)子育ての仲間の輪をつくる 4)食育について 5)おんぶに抱っこはこころの栄養</p> <p>平成15年度 母子保健・健全育成住民会議開催状況 開催日:平成15年 9月9日(火)、9月2日(火) 県:石川、和歌山 会場:宇ノ気町 西田幾多郎記念哲学館、ホテル浦島 コンパ ソンパレス龍宮 参加人数:各300人</p>	<p>10 妊婦等禁煙運動の推進 母子保健の基礎となる母性の健康保持増進をは かるため、妊婦の喫煙による胎児障害の発生防止 を目的とするポスター、リーフレットを都道府県・政 令市・医療機関・関係諸団体に制作配布するととも に、母子保健推進員研修会等において啓発をはか る。 (1)ポスターの制作配布〔表題〕「ママ、パパ、 タバコすわないで」 (後援) 社団法人 日本産婦人科医会(予定) (制作数) 約20,000枚 (配布先) 都道府県、政令市、関係諸団体、病産 院</p> <p>(2)リーフレットの制作配布 (表題)「ママ、パパ、タバコすわないで」 (制作数) 約86,000部 (配布先) 都道府県、関係諸団体</p> <p>(3)クリアファイルの制作配布 (表題)「ママ、パパ、タバコすわないで」 タバコの吸いすぎは、早産・低体重児の誘因にな ります。 (制作数) 約12,000枚 (配布先) 研修会開催県及び参加者</p> <p>11 子どもの事故防止推進事業 (社)日本家族計画協会が行う研修会を後援する。</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
-小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
50.(社)母子保健推進会議		<p>8 母子保健に対する知識の普及啓発活動 10月を「母子保健強調月間」とし、(社)日本産婦人科医会、(社)日本小児保健協会など本会議会員団体の協力、厚生労働省の後援を得て次の事業を実施した。 (1)妊産婦、乳幼児の健康診査受診勧奨ポスターの制作配布 〔表題〕「子どもを家庭内の事故から守りましょう」 - 1歳半までに起こりやすい事故は転落・やけど・誤飲です - 働く女性、事業主の皆さん「母健連絡カード」を利用しましょう 10月は母子保健強調月間です 〔規格〕 B2 4C 〔主唱〕 社団法人 母子保健推進会議 〔後援〕 厚生労働省 〔制作数〕 45,800枚 〔配布先〕 都道府県、政令市、中核市、関係諸団体 (2)母子保健啓発用パンフレットの制作配布 〔表題〕 地域母子保健情報 事例集 - 1 - 「母子保健39」 〔規格〕 A4 P26 〔制作数〕 2,500部 〔配布先〕 都道府県、政令市、中核市、関係諸団体、全国大会参加者</p> <p>9 母子歯科保健知識の普及運動 (1)母子保健推進員、保健師、学校関係者に対する歯科保健教育研修会の実施 市町村母子保健対策の一環として母と子の歯科保健知識の普及をはかるため、歯科保健教育研修会を育児教育と併せて、母子保健推進員及び保健師、学校関係者等を対象に、次の各県で行った。</p>	<p>12 全国母子保健推進員連絡協議会事業 (1)都道府県、保健所、市町村単位推進員協議会等の組織育成 (2)母子保健推進員全国大会及び都道府県別母子保健推進員研修会の開催 (3)母子保健推進員協議会及び母子保健推進員の本会議会長表彰の実施 13 日本財団助成事業の実施 日本財団から助成を受け「子育てピア」育成支援モデル事業を全国5地区で実施する。</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
 -小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
50.(社)母子 保健推進会議		主な内容は、 1)口腔管理 おもしろ歯学 2)歯周病は万病のもと 3)摂食機能の発達について 4)歯科臨床の現場から 5)噛み合わせと歯の健康 6)歯科矯正 7)たばこと歯周病 8)乳幼児歯科保健の現状 9)フッ化物応用について 開催県：鳥取県、新潟県、青森県、山口県、富山県、岐阜 県、佐賀県、長野県、鹿児島県、沖縄県、茨城県 (2) 歯科保健パンフレットの委託制作 三重県の委託、三重県歯科医師会の指導により制作配 布。 〔表 題〕「歯のパスポート」守ってあげてね！お子様の 歯！こんにちは！6歯白歯 〔規 格〕A6判 P13 〔制作数〕40,000部 〔配布先〕三重県歯科医師会 (3) 歯科保健に関するリーフレットの制作配布 〔表 題〕「おかあさんといっしょに よい歯で よくかむ よい子ども」 〔規 格〕B6 3ツ折り 4C×2C 〔協 賛〕花王株式会社 〔制作数〕750,000部 〔配布先〕全国保健センター、各県研修会場	

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
 -小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
50.(社)母子保健推進会議		(3) 歯科保健ダブルクリアファイルの制作配布 [表題] 「歯ブラシはこまめに替えよう」「キシリトールでむし歯予防」 [規格] A4 4色 [協賛] 花王株式会社 [制作数] 5,950部 [配布先] 各県研修会場 (4) 歯科保健指導用パネル制作配布 [表題] 歯科保健指導用パネル [規格] A全版 多色刷り Aシリーズ: 8枚 / Bシリーズ: 8枚 / No.231 ~ 246新シリーズ 16枚 計32枚 [指導] (社)日本歯科医師会 [制作数] 263枚 [配布先] 都道府県、政令市、市町村、各県歯科医師会関係 (5) 母子歯科保健教材セットの配布 [対象] 1.6歳児または3歳児 [実施方法] 保健所、市町村保健センター等の歯科健康診査及び歯みがき教室の実施日に教材を配布し、歯科保健知識の普及を図った。 [配布教材] 1.6歳児用歯ブラシとリーフレット、3歳児用歯ブラシとリーフレット [配布数] 559,750セット [配布先] 県(市)主管課または保健所	

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
 -小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
50.(社)母子保健推進会議		10 妊婦等禁煙運動の推進 妊婦の喫煙による弊害を訴えるポスターを制作し、都道府県、政令市、中核市、病産院等に配布し、啓発普及を行った。 (1)ポスターの制作配布 〔表題〕「ママ、パパ、タバコすわないで」 〔規格〕B2 4C 〔協賛〕明治乳業株式会社 〔後援〕社団法人 日本産婦人科医会 〔制作数〕20,000枚 〔配布先〕都道府県、政令市、病産院、関係諸団体等 (2)リーフレットの制作配布 〔表題〕「ママ、パパ、タバコすわないで」 - タバコは早産・低体重児の誘因になります - 〔規格〕B6 2ツ折り 4C×2C 〔協賛〕明治乳業株式会社 〔制作数〕86,000部 〔配布先〕都道府県、関係諸団体等 (3)クリアファイルの制作配布 〔表題〕「ママ、パパ、タバコすわないで」 - タバコは早産・低体重児の誘因になります - 〔規格〕A4 4色 〔協賛〕明治乳業株式会社 〔制作数〕15,000枚 〔配布先〕研修会開催県及び参加者等	

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
 -小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
50.(社)母子保健推進会議		11 子どもの事故防止推進事業 (社)日本家族計画協会が主催する子どもの事故防止のための研修会に全面的に協力を行った。研修会の開催平成15年10月4日(土)～5(日)東京都品川区 人事労務会館 12 子どもの虐待防止推進事業 「児童虐待防止のための地域支援事業」として日本財団より助成を受け研修会の開催ならびに「テキスト」「リーフレット」を制作し広く活用を図った。 (1)研修会 延参加者数 2,170名 神戸市 平成15年 7月11日(金) シーガルホール 420名 青森県 平成15年11月11日(火) アピオあおもり 200名 佐賀県 平成15年12月 4日(木) アバンセホール 320名 高知県 平成15年12月19日(金) 高知城ホール 200名 福岡県 平成16年 1月22日(木) 福岡県庁講堂 450名 栃木県 平成16年 1月29日(木) とちぎ福祉プラザ 380名 岡山県 平成16年 3月23日(火) 岡山県総合福祉会館 200名	

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
 -小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
50.(社)母子保健推進会議		<p>(2)テキストとリーフレットを上記5県並びに本会関連事業として子ども虐待研修を実施した北海道、茨城県において配布し、有効活用を図った。</p> <p>テキスト... 「母推ノート」- 子ども虐待防止のためのサポート - 15,000部 規格:A5版、80頁、4色刷 著者:佐藤 拓代 小児科産婦人科医、大阪児童虐待研究会世話人</p> <p>リーフレット...「お母さん、子育てを楽しんでいますか？」 - 一人で悩まないで、私たちもお手伝いできます - 130,000部 規格:B6版8頁、4色刷 著者:佐藤 拓代 小児科産婦人科医、大阪府児童虐待研究会世話人</p> <p>13 子育てピア教育者養成事業 独立行政法人 福祉医療機構より「子育て中の母親へのピア教育者養成事業」への助成を受け、研究委員として下記6名を委嘱し、保健師等専門職を対象とした研修会の開催とマニュアルの制作を行った。</p> <p>研究委員： 川村和枝 栃木県西健康福祉センター主査・保健師 鈴木信子 新潟県五泉市健康福祉課主管・保健師 高村寿子 自治医科大学看護学部教授 平沼幹男 戸田市医療センター健康推進室長 松浦賢長 福岡県立大学看護学部地域看護学講座教授 宮城邦子 沖縄県北部福祉保健所保健師（アイウエオ順）</p>	

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
 -小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
50.(社)母子保健推進会議		(1)研修会 保健師等専門職のための「子育てピア」支援者研修会を開催し、北海道から沖縄まで73名の参加を得て開催した。 期日:平成16年2月28日(土)～29日(日) 会場:東京国際フォーラム 参加者数:73名(定員70名) 抄録:A4版 全1色印刷、本文98頁 (2)マニュアルの配布 保健師等専門職のための「子育てピア」支援者マニュアルを1,000部刊行し、全国都道府県主要市町村等に1,000部の寄贈を行った。A4版 表紙2色、本文1色印刷 本文64頁 14 第15回手づくり健康教育媒体コンテストの開催 本会議、(社)日本家族計画協会、(財)予防医学事業中央会の共催、厚生労働省、健康保険組合連合会、(財)健康・体力づくり事業財団、(社)全国保健センター連合会の後援により全国の行政や健康保険組合などで独自に制作、活用している手づくり教材を募集し、全国より94件の応募があった。さらに、他の模範となるよう表彰し、その成果を広く周知した。 厚生労働大臣賞 1席 北海道中札内村 河井 泉 PCソフト「見つめてみませんか?自分の「性=生」」	

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
 -小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
50.(社)母子 保健推進会議		優秀賞 3席 東京都松下電器健康保険組合松下健康管理センター CD「yum・yumソング まごわやさしい」 模型「まごわやさしい食品マスコット」 滋賀県湖東町保健福祉課 記録帳と付属品「夢と元気がふくらむ運動 継続支援グッズ～元気な千両箱」 沖縄県八重山福祉保健所健康推進課 パネルチャート「禁煙教育」 佳作賞 30席 北海道新冠町立朝日小学校 模型「胎児の様子がわかる妊婦エプロン」 ほか29席 奨励賞 60席 北海道渡島保健所 PCソフト(スライドショー)「健康日本21」 ほか59席 15 幹旋事業 (1) 歯科保健教育指導用パネル (2) 母子保健推進員手帳 (3) リーフレット 「ママ、パパ、タバコをすわないで」 「丈夫な赤ちゃんを生み育てましょう」 「元気に育てよう 私の赤ちゃん」 「よい歯でよくかむよい子ども」	

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
 -小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
50.(社)母子保健推進会議		(4) 歯磨き指導模型 (5) 誤飲チェッカー (6) 母推さんのためのパンフレット 1) これを防げる子どもの事故 2) 絵本で子育て・親育ち 3) 「ニコニコ抱っこ」のすすめ 4) 「ダダこね育ち」のすすめ 5) 「見えない子心」気づく親心 6) 作って遊ぼう布の絵本 7) 赤ちゃんと遊ぶ楽楽手作りおもちゃ 8) 赤ちゃんの心を育てるおもちゃ遊び 9) 子育てQ&A 赤ちゃんはなぜ泣くの 10) 目で見る子どもの事故予防 11) 子どもの事故予防グッズを作ろう 16 関係団体との協力 (1) 本会議会員団体の活動に協力した。 (2) 全国母子保健推進員連絡協議会の活動に支援を行った。	

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
-小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
56. 日本小児神経学会	43.身体障害者療育支援、教育現場での医療的ケアの実践への努力、障害をもったまま年齢が長じたキャリアオーバー児への診療支援、特別支援教育への積極的支援	<p>1)学会と社会との連携を強める・専門家としての支援 第45回日本小児神経学会総会で公開シンポジウム「教育と医療の連携・小児神経科医が果たすべき役割」を行った。シンポジストに教育職、保護者(患者家族)、行政(地元と文部科学省)を迎えた。 参加人数:約300人(教育関係者、保護者、医師など)。 効果:医療的ケアについてのあらゆる関係者が一同に介して討論し、問題点がかなり明瞭になった。今後はそれぞれの立場から基盤整備に向けた努力をする。</p> <p>2)学会と行政の連携 文部科学省特別教育支援課の要請に応じて、LD,AD/HDについての専門会議 (特別支援事業推進協議会)に学会として専門委員を送り協力した。 効果:上記疾患についての学会内専門家名(280人)をホームページに公表し、文部科学省にも伝えた。より確実な専門家による診断で、教育内容検討の資料となる。</p>	<p>1)文部科学省の養護学校医療的ケアモデル事業の2年目になり、学会として研修体制の確立に協力する。2004年秋に学会医師を対象に「医療的ケア研修講師養成セミナー」を開催する。 第1回として全国に50人の講師を作り、養護学校担当者や地域支援事業の一貫として、それぞれの地域で専門医講師として研修を支援する。そのことによって地域や学校で重い障害を持つ子ども達がより快適な生活を目指せるとともに、保護者の負担も軽減される。</p> <p>2)2004年の第46回日本小児神経学会総会において、患者本人や家族が地域で快適に過ごすためにわれわれ専門医に何が出来るかを引き続き討論する。ワークショップ「重度知的障害者の地域生活における健康管理・医療のノーマライゼーションの構築に向けて」では、重度知的障害者の地域生活における健康管理についても討論する。シンポジウム「小児神経科専門医とキャリアオーバー」では、キャリアオーバー(15歳以上の患者)児の課題と今後の診療態勢について討論する。公開シンポジウム「メディアが子ども脳におよぼす影響」を開催予定。</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
-小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
58. 全国病児 保育協議会	病気のこどもの家庭での看護保育の実践	<p>研修会を開催 基礎セミナー「総論・看護師のための保育知識・保育士のための看護知識」 分科会「なんでも相談Q&A」 「保育園型病後児保育(家庭的保育をめざして)」 「高実績施設からのワンポイントアドバイス」 「パートナーシップとしての行政とのあゆみ」 ワークショップ「厨房施設衛生管理基準」 「病児のための遊びの提供」 「インシデントレポート」 その他 病児保育を知ってもらうための広報活動 ニュースの発行、HPの更新・維持 ポスターを作成し、各施設に掲示してもらうよう呼びかけた。</p>	<p>研修会を開催(平成16年7月18日・19日 於:横浜) 市民公開講座 「横浜市の保育行政と病後児保育」 講師 横浜市子育て支援事業本部 本部長 鈴木隆 氏 病(後)児保育室自己評価基準全国調査報告 全国病児保育室実態調査報告 基礎研修「病後児保育基礎講座(仮)」 ステップアップ研修「食物アレルギーと除去食」 「子どもの呼吸障害」 分科会「なんでも相談Q&A」 ポスターセッション 実習講座「日赤幼児安全法」 その他 病児保育を知ってもらうための広報活動 病児保育のポスターを年度ごとに内容を再検討し、作り変える。 過去のメール、掲示板の内容を整理し、病児保育に関するQ&Aをまとめる</p>
62. 日本小児 期外科系関連 学会協議会	39.41.	<p>1. 協議会全体会議を7月15日(火)開催した。 2. 小児医療、なかんずく小児の外科的医療の診療報酬改定について、厚生労働省保険局医療課へ適正な改正要望を平成15年10月に行った。 3. 小児医療環境整備のため、日本小児総合医療施設協議会とともに、2003年度診療報酬改定要望書を作成して厚生労働省へ提出した。 4. 課題3グループの行動目標だった「麻疹接種率の向上」を参加各団体に呼びかけた。 5. 小児医療環境整備のために、小児期外科系関連の学会、研究会に当協議会への参画を呼びかける。</p>	<p>1. 協議会全体会議を開催する。 2. 日本小児総合医療施設協議会とともに、2004年度診療報酬改定要望書を作成する。 3. 小児医療環境整備のために、小児期外科系関連の学会・研究会に、当協議会への参画を呼びかける。 4. 課題3グループの今年度行動目標である「妊娠中、子育て中の禁煙運動」への取り組みを参加各団体に呼びかける。</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
 -小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
66. 日本小児循環器学会		1. 川崎病管理基準の改訂 平成1年に作られた「川崎病管理基準」を改訂し、時代に合ったものにした。 2. 「川崎病急性期治療ガイドライン」の作成 ガンマグロブリン単独大量療法に対する治療ガイドラインを作成した。 3. 「川崎病心血管後遺症の診断と治療に関するガイドライン」の作成 川崎病がはじめて報告されてから35年以上が経過し、川崎病既往者の多くが内科領域の年齢に達している。このガイドラインは小児循環器医から循環器内科医への連携を確立するために、日本循環器学会が中心になり、日本小児循環器学会が協力して作成した。 4. 学校心臓検診を継続的に行ない、突然死の予防に貢献している。 5. 自民党「脳死・生命倫理および臓器移植調査会」に対して関係学会とともに要望書を提出した。 この要望書の骨子は、現行の法律に加えて本人が生前に拒否の意志表示をしていなければ遺族の承諾のみで臓器提供（年齢制限なし）を行なえるようにしてほしい、というものである。	

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
-小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
69. 全国母子保健推進員連絡協議会	28.29.33.45.46.48.49.58.60.62.	<p>1 第3回母子保健推進員全国大会の開催 平成15年11月7日(金)富山県民会館において本会議、富山県、富山市、全国母子保健推進員連絡協議会の主催、厚生労働省他21団体の後援により1,000名の母子保健推進員及び関係者を集め、開催した。 特別講演「健やか親子21 母子保健推進員活動に期待するもの」 座長 和歌山県母と子の健康づくり運動協議会 会長 狭間歌子 演者 厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課 課長 谷口隆 活動報告「大門町における地域母子保健活動の実際」 座長 長野県保健補導員会等連絡協議会 会長 伊藤氣雪 演者 富山県大門町保健センター 所長 宮本絹枝 富山県大門町母子保健推進員協議会 会長 山本芳子 富山県大門町母子保健推進員協議会 会員一同 記念講演「住民参加から住民が主役に～須坂の母ちゃん、頑張る～」 座長 (社)母子保健推進会議 常務理事 原澤勇 演者 長野県在宅看護職の会 顧問 大峽美代志 大会宣言 富山県母子保健推進員連絡協議会 会長 川岸みづほ</p>	<p>1 第4回母子保健推進員全国大会の開催 期 日:平成16年11月18日(木) 会 場:宮城県民会館</p> <p>2 母子保健推進員教育事業 母子保健推進員研修会の開催</p> <p>3 全国母子保健推進員連絡協議会活動報告会の開催 厚生労働省・全国自治体・母子保健推進員協議会代表に参加いただき、全国母子保健推進員連絡協議会組織育成・活動報告、情報交換を行う。</p> <p>4 本会議機関紙「地域母子保健情報紙 - 母推さん -」の刊行 「地域母子保健情報紙-母推さん-」を毎月1日(116～127)発行し、都道府県・保健所・市町村および母子保健推進員協議会等関係機関に配布する。</p> <p>5 母子保健に対する知識の普及啓発活動 10月を「母子保健強調月間」とし、厚生労働省の後援、(社)日本産婦人科医会など、会員団体の協力を得て次の事業を行う。 妊産婦、乳幼児の健康診査受診勧奨ポスターの制作配布</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
 -小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
69. 全国母子保健推進員連絡協議会		<p>2 全国母子保健推進員連絡協議会活動報告会の開催 日 時:平成15年11月6日(木) 17:15 ~ 20:00 会 場:富山県民会館 701号室 内 容:1.母子保健推進員活動報告 2.協議事項 3.情報交換 出席者:52名(厚生労働省担当課、県・市町村母子保健担当者、母子保健推進員代表および関係者) 3 母子保健推進員教育事業 母子保健推進員研修会の開催 市町村母子保健事業促進と母子保健推進員の資質向上をはかるため、母子保健担当者及び母子保健推進員を対象に、厚生労働省の後援により次の各県で研修会を開催した。</p> <p>主な研修会の内容は、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 母子保健推進員活動 2) こどもの事故防止 3) 乳児期の歯科保健 4) 子育て支援(こころを育てる、絵本・ことばのよろこび) 5) 歯科保健 6) 子どもの虐待 7) 思春期保健 	<p>(表 題) 「ママと赤ちゃんの健康チェック」 支えよう21世紀の健やか親子・健診を忘れずに受けましょう 働く女性・事業主の皆さん「母健連絡カード」を利用しましょう 「健やか親子21」国民運動の推進 6 母子歯科保健知識の普及活動 (1) 母子保健推進員、保健師、学校関係者の歯科保健教育研修会の開催 (2) 歯科保健に関するテキストの制作配布 (表 題) ダブルファイル「キシリトールでむし歯予防」「歯ブラシはこまめに替えよう」 (3) 歯科保健パンフレットの委託制作 愛知県及び三重県歯科医師会より委託を受け制作・配布する。 (4) 母子歯科保健教材セットの配布事業</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
 -小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
69. 全国母子保健推進員連絡協議会		(3)母と子の健康を守るつどい 母子保健推進員の地域活動を助成し、県民の乳幼児保育に対する意識の向上と地域連帯感の高揚をはかるため「母と子の健康を守るつどい」を次の県で開催した。 開催日：平成15年10月5日(日) 県：山口 会場：柳井市保健センター 参加人数：200人 (4)母子保健指導書の制作頒布ならびにリーフレットの制作配布 母子保健推進員に対する指導書及び推進員訪問活動用リーフレットを制作配布し、母子保健事業の教育並びに啓発を行った。 1)指導書 〔表題〕「母子保健推進員」 〔配布先〕母子保健推進員 2)リーフレット 〔表題〕「丈夫な赤ちゃんを生ま育てましょう」 「元気に育てよう 私の赤ちゃん」 〔配布先〕母子保健推進員(研修会参加者) 4 都道府県母子保健推進員協議会の組織育成事業 母子保健推進員の育成と全国的な組織活動を支援する都道府県母子保健推進員協議会に対して育成費の助成を行った。 富山県母子保健推進員連絡協議会 長野県保健補導員会等連絡協議会 新潟県母子保健推進協議会 和歌山県母と子の健康づくり運動協議会 山口県母子保健推進協議会 佐賀県母子保健推進協議会	7 妊婦等禁煙運動の推進 (1)ポスターの制作配布〔表題〕「ママ、パパ、タバコすわないで」 (2)リーフレットの制作配布 〔表題〕「ママ、パパ、タバコすわないで」 (3)クリアファイルの制作配布 〔表題〕「ママ、パパ、タバコすわないで」 タバコの吸いすぎは、早産・低体重児の誘因になります。

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
 -小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
69. 全国母子保健推進員連絡協議会		<p>5 本会議機関紙「地域母子保健情報紙 - 母推さん -」の刊行 地域母子保健担当者を対象として、機関紙「地域母子保健情報紙 - 母推さん - (A4判)」を毎月発行し、全国の都道府県・保健所・市町村母子保健関係者等に配布した。 104号～115号</p> <p>6 子育て支援グループ育成事業 地域住民の参加により、子育て問題をテーマとする「母子保健・健全育成住民会議」を次の各県で開催した。 主な研修会の内容は 1) 子育て支援とは 2) 子育てと家族 3) 子育ての仲間の輪をつくらう 4) 食育について 5) おんぶに抱っこはこころの栄養</p> <p>平成15年度 母子保健・健全育成住民会議開催状況 開催日：平成15年9月9日(火)、9月2日(火) 県：石川、和歌山 会場：宇ノ気町 西田幾多郎記念哲学館、ホテル浦島 コンパシヨナルス龍宮 参加人数：合計600人</p>	

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
-小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
69. 全国母子保健推進員連絡協議会		<p>7 母子保健に対する知識の普及啓発活動 10月を「母子保健強調月間」とし、(社)日本産婦人科医学会、(社)日本小児保健協会など本協議会会員団体の協力、厚生労働省の後援を得て次の事業を実施した。 (1)妊産婦、乳幼児の健康診査受診勧奨ポスターの制作配布 〔表題〕「子どもを家庭内の事故から守りましょう」 - 1歳半までに起こりやすい事故は転落・やけど・誤飲です - 働く女性、事業主の皆さん「母健連絡カード」を利用しましょう 10月は母子保健強調月間です 〔主 唱〕 社団法人 母子保健推進会議 〔後 援〕 厚生労働省 〔配布先〕 都道府県、政令市、中核市、関係諸団体 (2)母子保健啓発用パンフレットの制作配布 〔表 題〕 地域母子保健情報 事例集 - 1 - 「母子保健39」 〔配布先〕 都道府県、政令市、中核市、関係諸団体、全国大会参加者</p> <p>8 母子歯科保健知識の普及運動 (1)母子保健推進員、保健師、学校関係者に対する歯科保健教育研修会の実施 市町村母子保健対策の一環として母と子の歯科保健知識の普及をはかるため、歯科保健教育研修会を育児教育と併せて、母子保健推進員及び保健師、学校関係者等を対象に、次の各県で行った。</p>	

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
 -小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
69. 全国母子保健推進員連絡協議会		主な内容は、 1) 口腔管理 おもしろ歯学 2) 歯周病は万病のもと 3) 摂食機能の発達について 4) 歯科臨床の現場から 5) 噛み合わせと歯の健康 6) 歯科矯正 7) たばこと歯周病 8) 乳幼児歯科保健の現状 9) フッ化物応用について 開催県：鳥取県、新潟県、青森県、山口県、富山県、岐阜県、 佐賀県、長野県、鹿児島県、沖縄県、茨城県 (2) 母子歯科保健教材セットの配布 〔対象〕 1.6歳児または3歳児 〔実施方法〕 保健所、市町村保健センター等の歯科健康診 査及び歯みがき教室の実施日に教材を配布し、歯科保健 知識の普及を図った。 〔配布教材〕 1.6歳児用歯ブラシとリーフレット 3歳児用歯ブラシとリーフレット 〔配布数〕 559,750セット 〔配布先〕 県(市)主管課または保健所	

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
 -小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
69. 全国母子保健推進員連絡協議会		<p>9 妊婦等禁煙運動の推進 妊婦の喫煙による弊害を訴えるポスターを制作し、都道府県、政令市、中核市、病産院等に配布し、啓発普及を行った。</p> <p>(1)ポスターの制作配布 〔表題〕「ママ、パパ、タバコすわないで」 〔後援〕社団法人 日本産婦人科医会 〔配布先〕都道府県、政令市、病産院、関係諸団体等</p> <p>(2)リーフレットの制作配布 〔表題〕「ママ、パパ、タバコすわないで」 - タバコは早産・低体重児の誘因になります - 〔配布先〕都道府県、関係諸団体等</p> <p>(3)クリアファイルの制作配布 〔表題〕「ママ、パパ、タバコすわないで」 - タバコは早産・低体重児の誘因になります - 〔配布先〕研修会開催県及び参加者等</p> <p>10 子どもの事故防止推進事業 (社)日本家族計画協会が主催する子どもの事故防止のための研修会に全面的に協力を行った。 研修会の開催平成15年10月4日(土)～5(日) 東京都品川区 人事労務会館</p>	

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
 -小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
69. 全国母子保健推進員連絡協議会		11 子どもの虐待防止推進事業 「児童虐待防止のための地域支援事業」として日本財団より助成を受け研修会の開催ならびに「テキスト」「リーフレット」を制作し広く活用を図った。 (1)研修会 延参加者数 2,170名 神戸市 平成15年 7月11日(金) シーガルホール 420名 青森県 平成15年11月11日(火) アピオあおもり 200名 佐賀県 平成15年12月 4日(木) アバンセホール 320名 高知県 平成15年12月19日(金) 高知城ホール 200名 福岡県 平成16年 1月22日(木) 福岡県庁講堂 450名 栃木県 平成16年 1月29日(木) とちぎ福祉プラザ 380名 岡山県 平成16年 3月23日(火) 岡山県総合福祉会館 200名 (2)テキストとリーフレットを上記5県並びに本会関連事業として子ども虐待研修を実施した北海道、茨城県において配布し、有効活用を図った。 テキスト... 「母推ノート」- 子ども虐待防止のためのサポート - 15,000部 著者:佐藤 拓代 小児科産婦人科医、大阪児童虐待研究会世話人 リーフレット...「お母さん、子育てを楽しんでいますか？」 - 一人で悩まないで、私たちもお手伝いできます - 130,000部 著者:佐藤 拓代 小児科産婦人科医、大阪府児童虐待研究会世話人	

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
 -小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
69. 全国母子保健推進員連絡協議会		12 第15回手づくり健康教育媒体コンテストの開催 本会議、(社)日本家族計画協会、(財)予防医学事業中央会の共催、厚生労働省、健康保険組合連合会、(財)健康・体力づくり事業財団、(社)全国保健センター連合会の後援により全国の行政や健康保険組合などで独自に制作、活用している手づくり教材を募集し、全国より94件の応募があった。さらに、他の模範となるよう表彰し、その成果を広く周知した。 厚生労働大臣賞 1席 北海道中札内村 河井 泉 PCソフト「見つめてみませんか？自分の『性=生』」 優秀賞 3席 東京都松下電器健康保険組合松下健康管理センター CD「yum・yumソング まごわやさしい」 模型「まごわやさしい食品マスコット」 滋賀県湖東町保健福祉課 記録帳と付属品「夢と元気がふくらむ運動 継続支援グッズ～元気な千両箱」 沖縄県八重山福祉保健所健康推進課 パネルチャート「禁煙教育」 佳作賞 30席 北海道新冠町立朝日小学校 模型「胎児の様子がわかる妊婦エプロン」 ほか29席 奨励賞 60席 北海道渡島保健所 PCソフト(スライドショー)「健康日本21」 ほか59席	

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
 -小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
75.(財)母子健康協会		<p>小児医学研究助成</p> <p>1. 小児医学研究助成 趣 旨 小児医学研究分野における研究を推進し、小児医学の進歩に寄与することを目的とする。 助成月日 平成15年11月1日 件 数 11件 総 額 1300万円 研究期間 平成15年11月～平成16年10月 対象課題 小児医学に関連する研究で小児の増進、疾病の予防と治療に役立ち得るものとする。 対象者 大学、研究所、病院に所属する小児医学分野の研究に従事する50歳未満の研究者とする。</p> <p>2. 小児医学研究助成報告書の発行 趣 旨 助成した小児医学研究の成果を小冊子にまとめ、全国の主要な大学研究機関に贈呈し、情報提供を行う。 報 告 書 平成13年度医学研究報告書 12件 B5版46頁 発刊月日 平成15年5月31日 部 数 300部</p>	<p>小児医学研究助成</p> <p>1. 小児医学研究助成 趣 旨 小児医学研究分野における研究を推進し、小児医学の進歩に寄与することを目的とする。 助成月日 平成16年10月 件 数 約12件 総 額 1300万円 研究期間 平成16年11月～平成17年10月 対象課題 小児医学に関連する研究で小児の増進、疾病の予防と治療に役立ち得るものとする。 対象者 大学、研究所、病院に所属する小児医学分野の研究に従事する50歳未満の研究者とする。</p> <p>2. 小児医学研究助成報告書の発行 趣 旨 助成した小児医学研究の成果を小冊子にまとめ、全国の主要な大学研究機関に贈呈し、情報提供を行う。 報 告 書 平成14年度医学研究報告書 12件 B5版 約40頁 発刊月日 平成16年5月31日 部 数 300部</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
 -小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
75.(財)母子健康協会		<p>保育園・幼稚園の先生への啓蒙 シンポジウム開催 趣 旨 保育園・幼稚園の先生方を対象したシンポジウムを年1回東京地区で開催し、小児医学・教育に関する啓蒙を行う。 シンポジウム内容は、機関誌「ふたば」に収録し、広く情報提供する。 開催日時 平成16年1月30日(金) 14時～17時 場所 アルカデア市ヶ谷 東京都千代田区 テーマ 「保育におけることばの問題と対応」 1歳6ヶ月の検診項目に「意味のある単語を2,3話す」「転ばないで上手に歩く」とありますが、人間の発達には非常に個人差があり、言葉の早い子では8,8ヶ月頃より、遅い子どもは3歳過ぎより話し始めます。それにもかかわらず、幼稚園や保育所において、養育者や保育者は「ことばが遅い」「どもる」「ことばがうまく話せない」など、言葉に関することを問題にすることが多くあります。これらの問題にどのように対応したらよいかについて、正しい認識と諸問題の解決策について専門講師の講演と受講者の質問を中心に話し合った。 講 師 前川喜平(東京慈恵会医科大学名誉教授) 秦野悦子(白百合女子大学発達心理学教授) 栗山容子(国際基督教大学発達心理学教授) 受講者 126名(都内保育園・幼稚園の先生)</p>	<p>保育園・幼稚園の先生への啓蒙 1. シンポジウム開催 趣 旨 保育園・幼稚園の先生方を対象したシンポジウムを年1回東京地区で開催し、小児医学・教育に関する啓蒙を行う。 シンポジウム内容は、機関誌「ふたば」に収録し、広く情報提供する。 開催日時 平成17年1月 場所 東京都内 テーマ 「未定」 講 師 前川喜平(東京慈恵会医科大学名誉教授)他2名(未定) 受講者 定員150名(都内保育園・幼稚園の先生対象) 2. 機関誌「ふたば」発行 趣 旨 保育園・幼稚園の先生方を対象した機関誌「ふたば」を発行し、小児医学・教育に関する啓蒙を行う。 発行月日 平成16年11月 発行部数 14,000部 贈呈先 全国の主要な保育園・幼稚園 内 容 B6版 約70頁 編集内容は未定</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
 -小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
75.(財)母子健康協会		機関誌「ふたば」発行 趣 旨 保育園・幼稚園の先生方を対象した機関誌「ふたば」を発行し、小児医学・教育に関する啓蒙を行う。 発行月日 平成15年11月10日 発行部数 14,000部 贈 呈 先 全国の主要な保育園・幼稚園 内 容 B6版 100頁 特集 「子どもの心身を蝕む社会環境」 こども心身医療研究所所長 富田和巳 紹介 「健やか親子21の推進について」 健やか親子21推進協議会 事務局 寄稿 「子どものけいれん、ひきつけ」 東北大小児科教授 飯沼一宇 シンポジウム「保育と予防接種」 講師 前川喜平(東京慈恵会医科大学名誉教授) 平山宗宏(子ども家庭総合研究所所長) 岡部信彦(国立感染症研究所感染症情報センター長)	